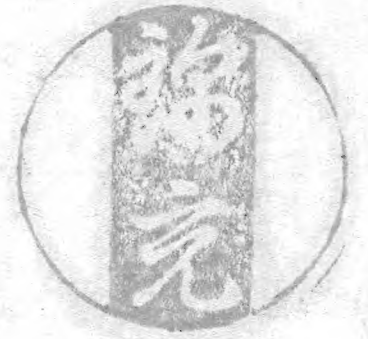
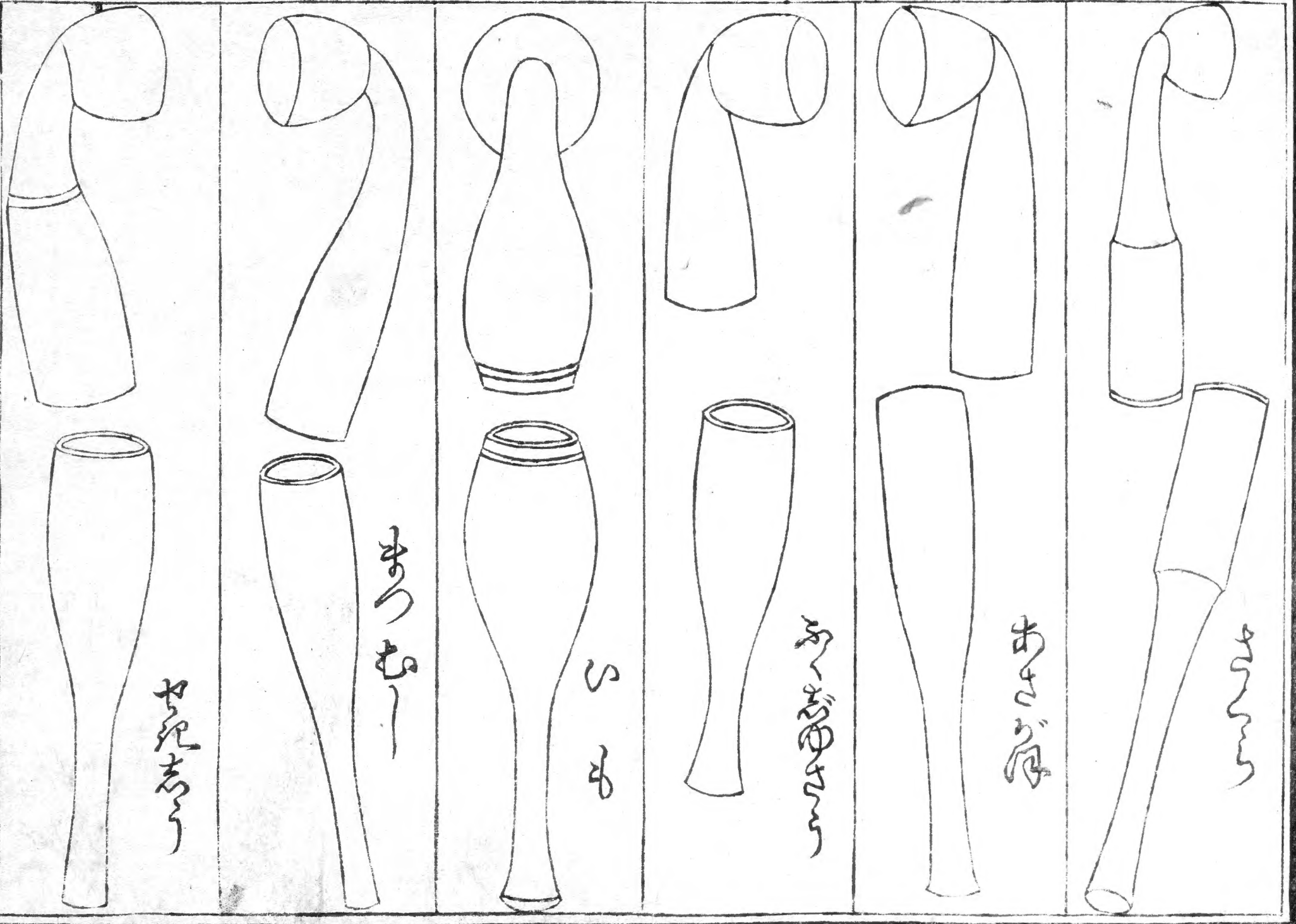


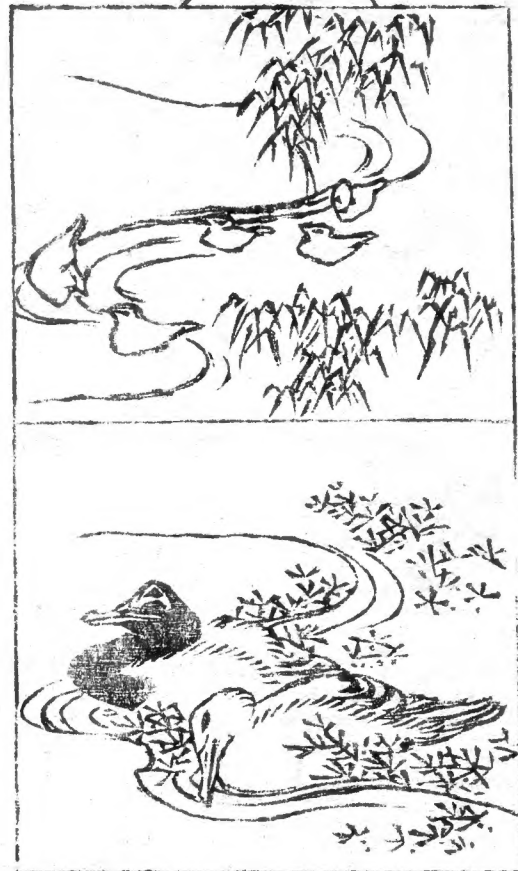
人権擁護会

全

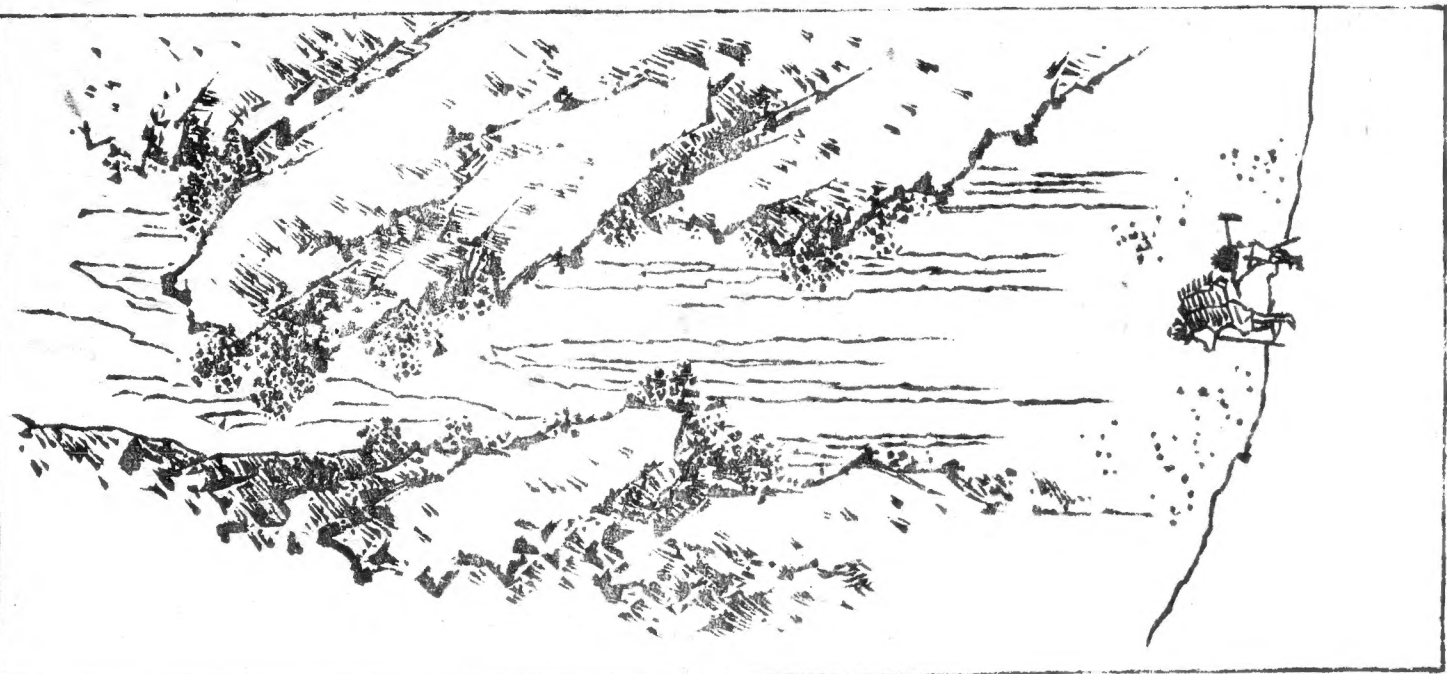
共済の部

180





のふちせるのりやうと
あるべし





日のくちり

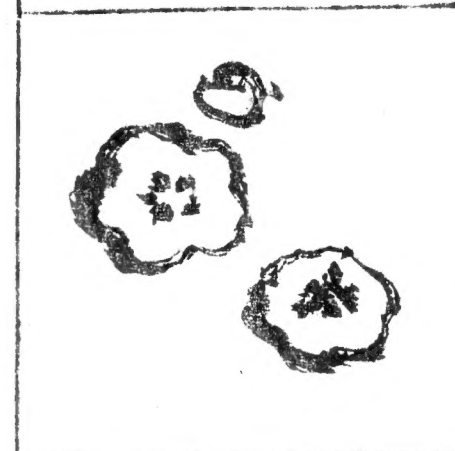
何と

中より

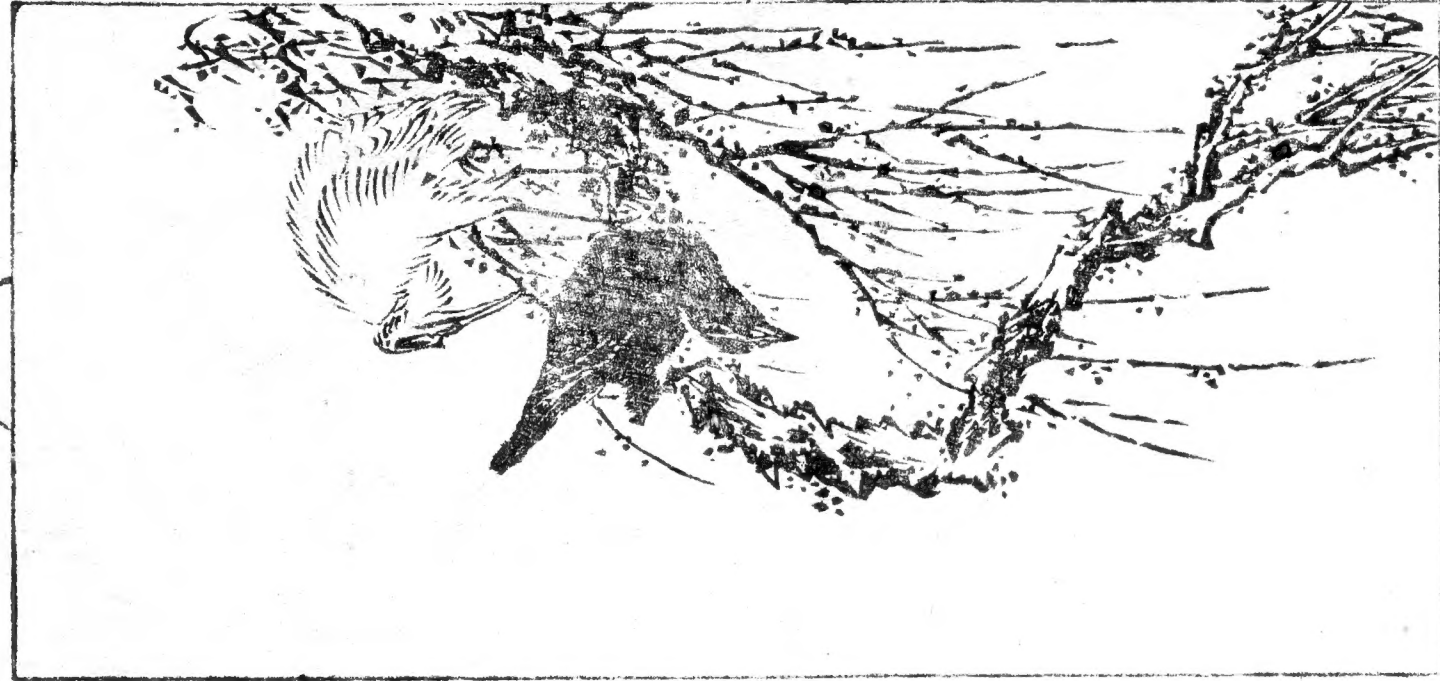
つるど

ふへて

は



のくちり
ふへて



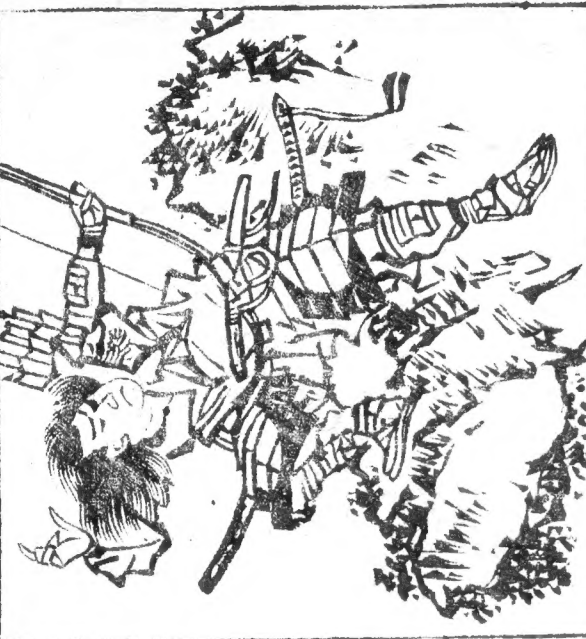
オノミ
コト



男
コト
サ

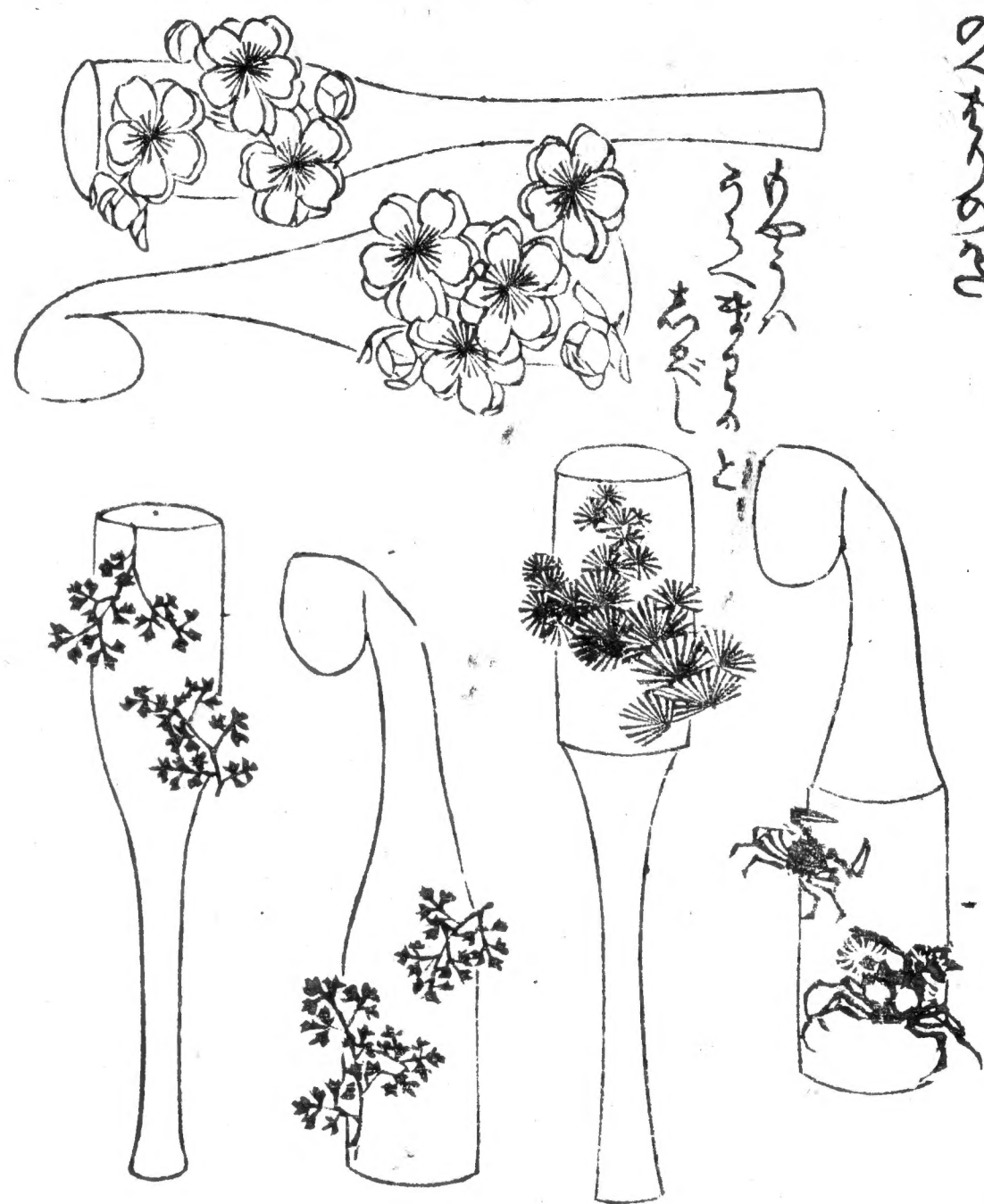
コト

コト
の
コト



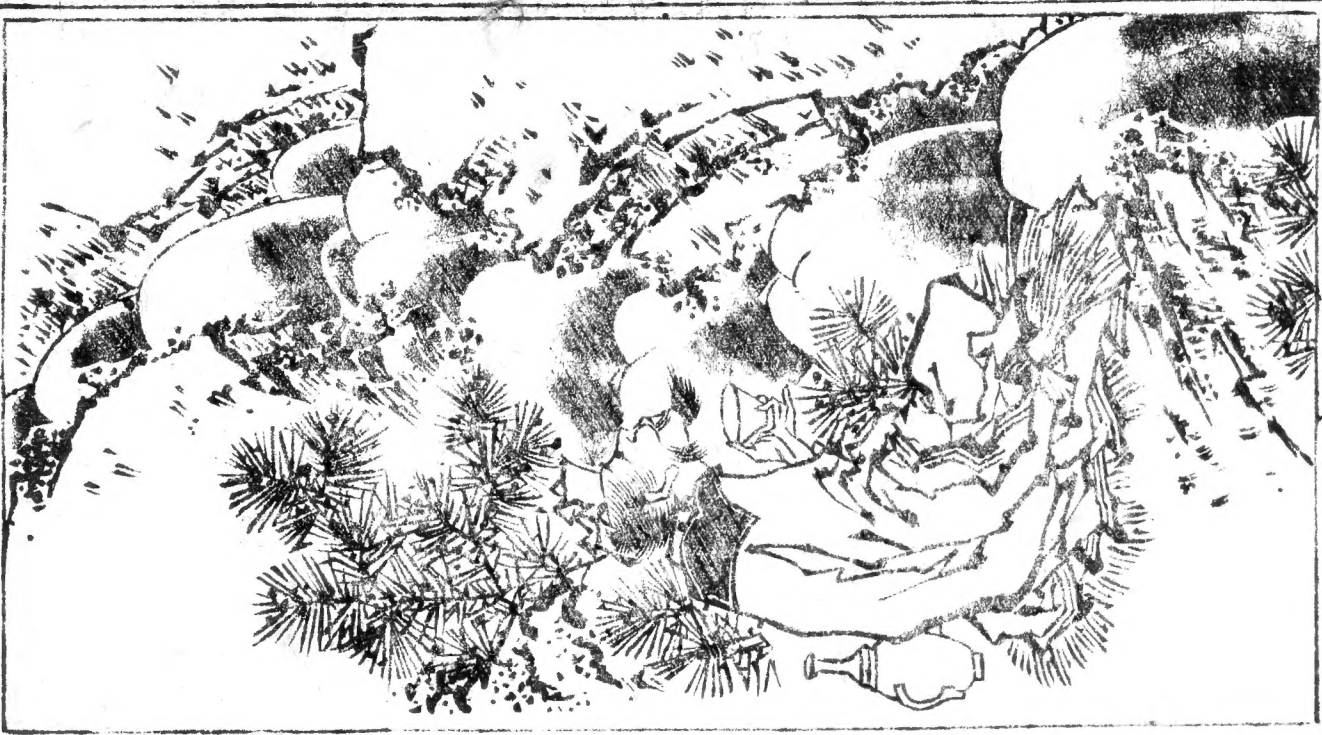


シロウメ

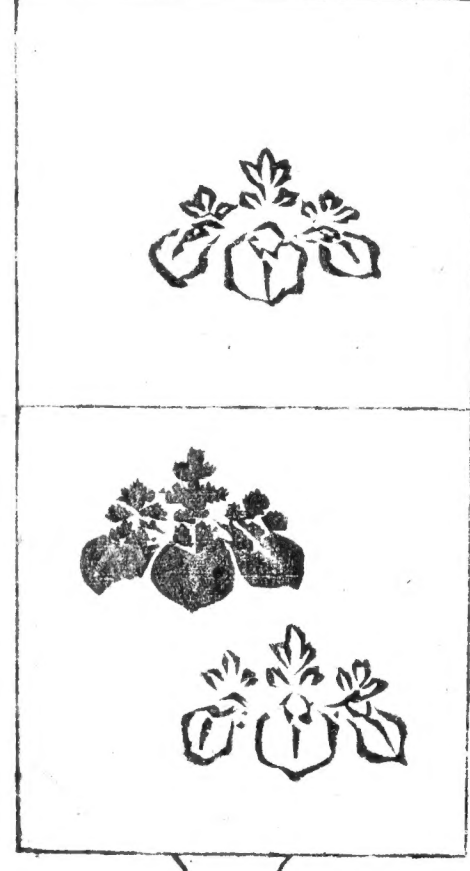


うめ
さくら
あけぼの
と

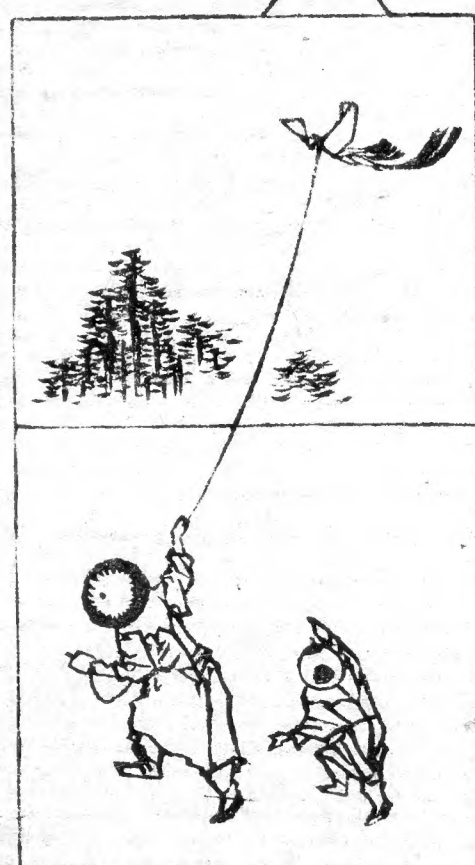
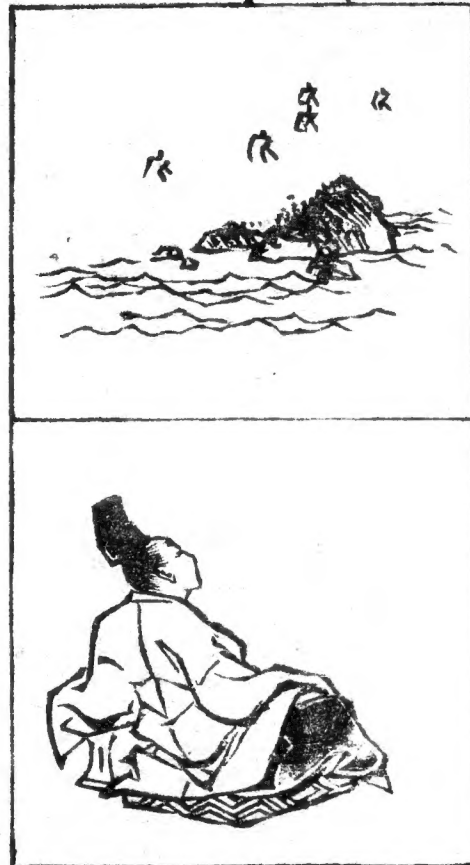
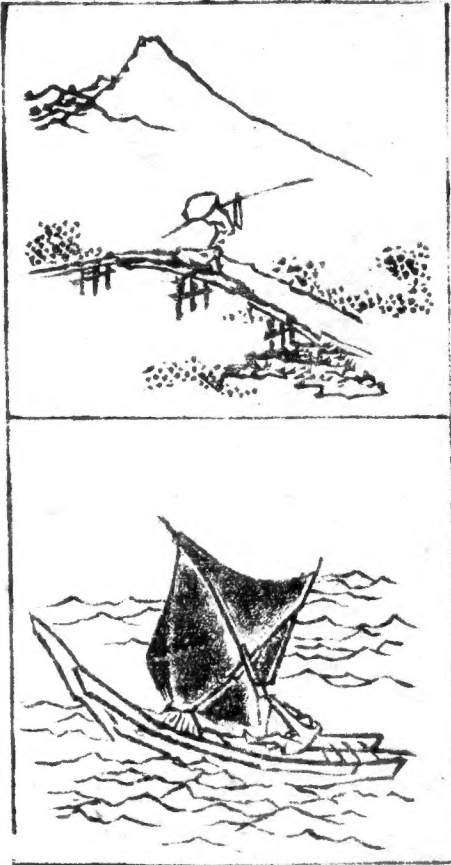
口のぐれりやう



けつてん
おんま
まねるの
りやうえ

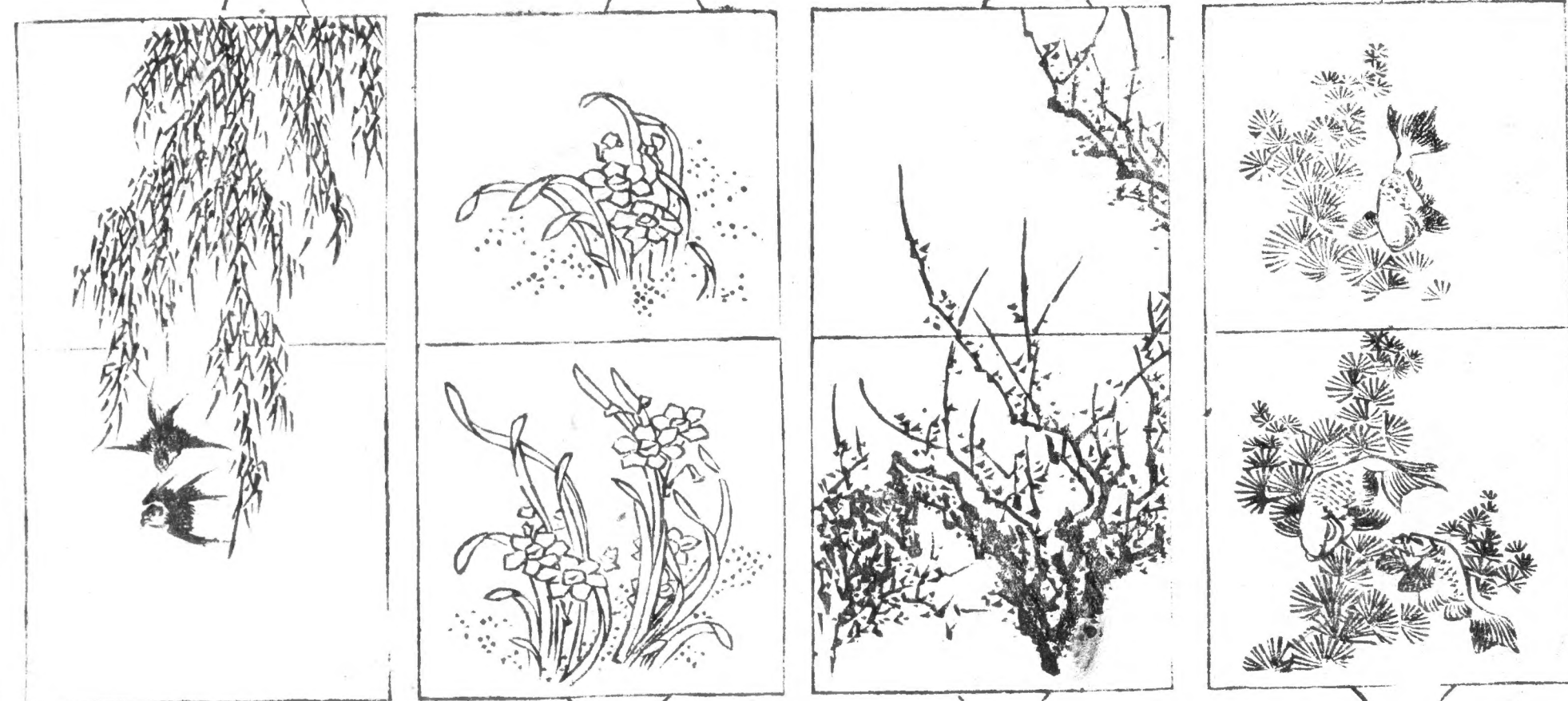


ロ
ド
く

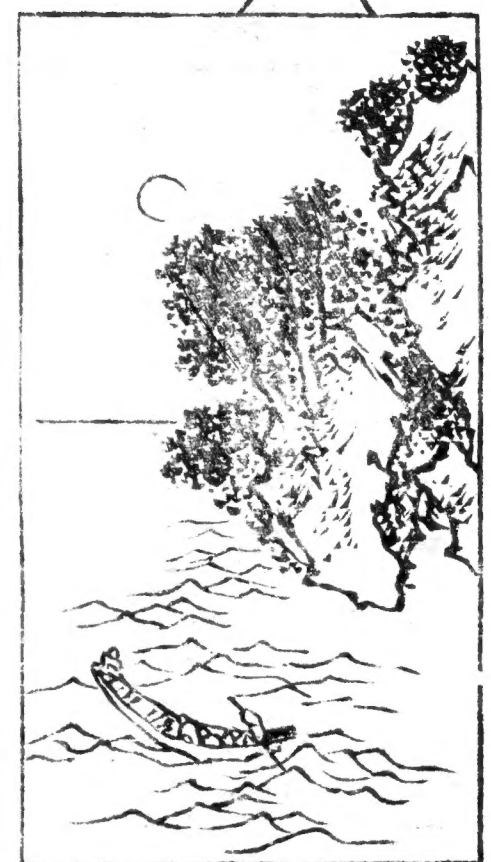
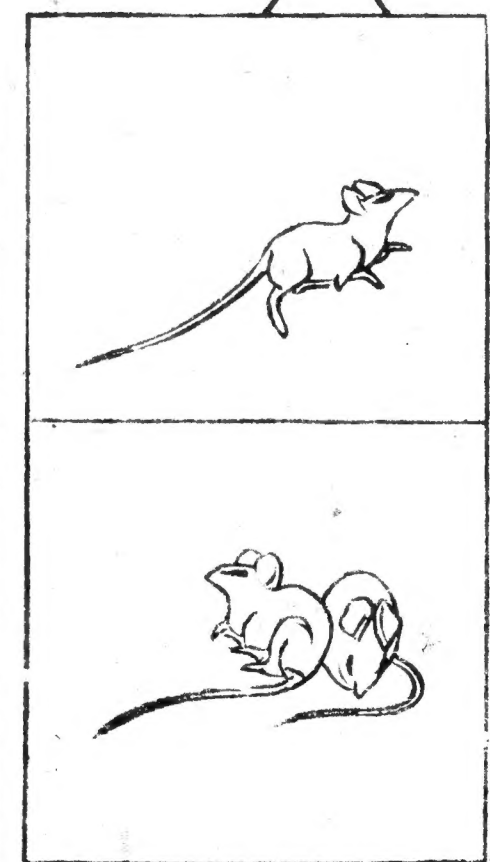




まふ
ド



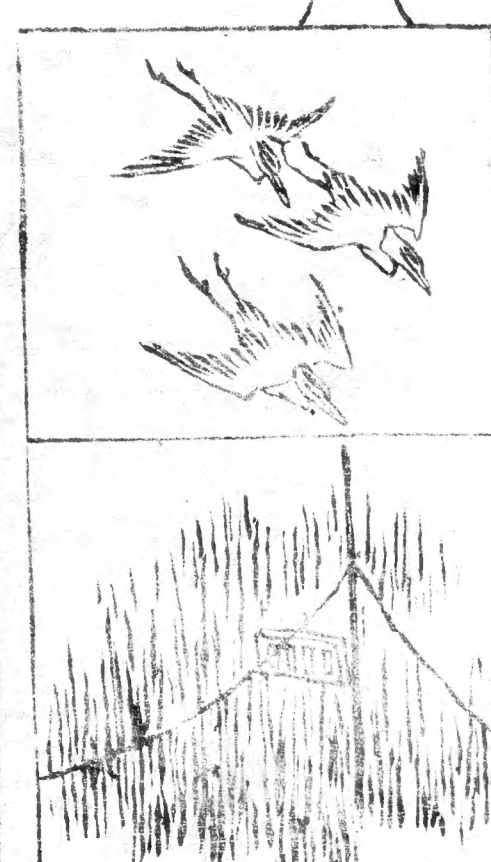
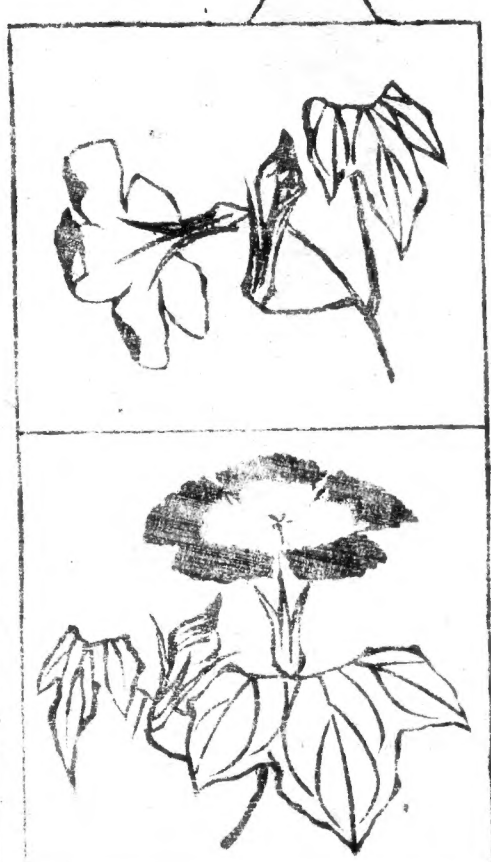
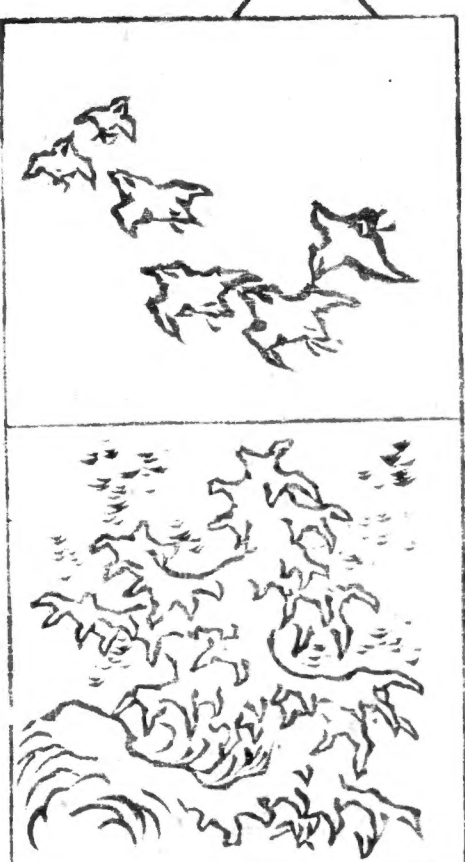
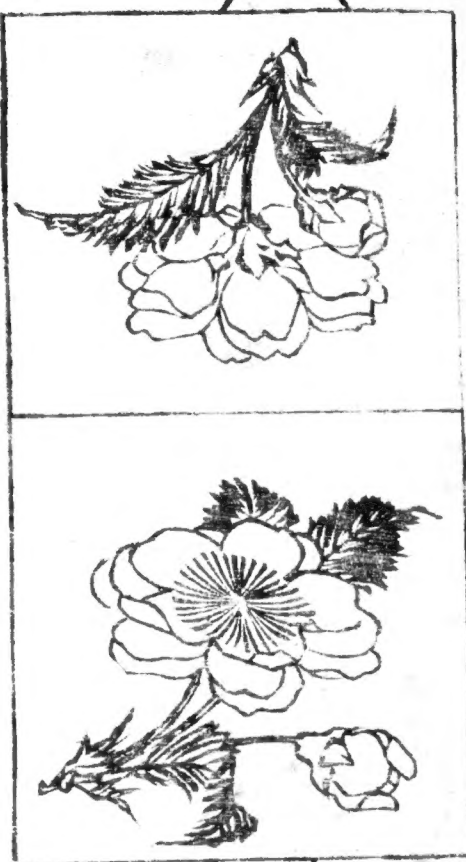
၇

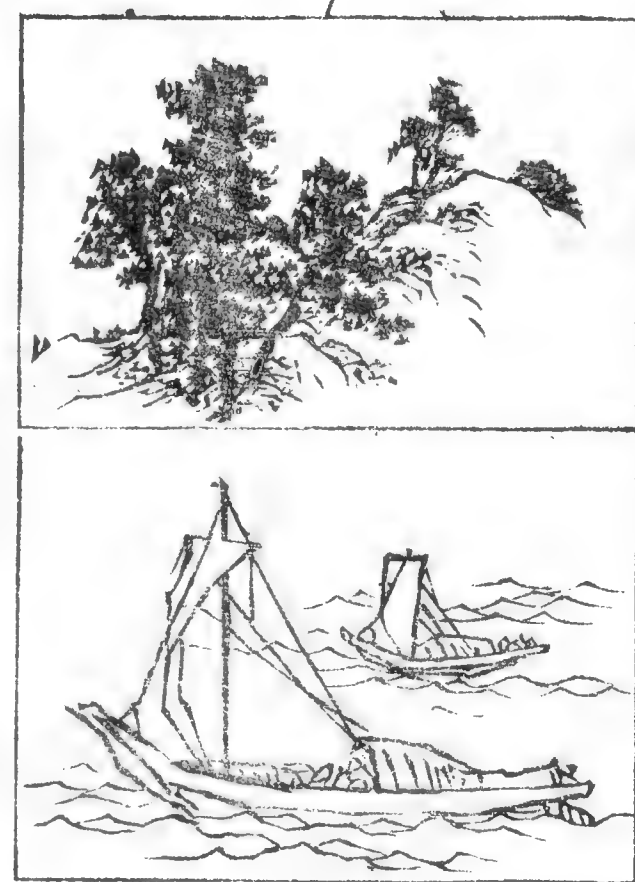
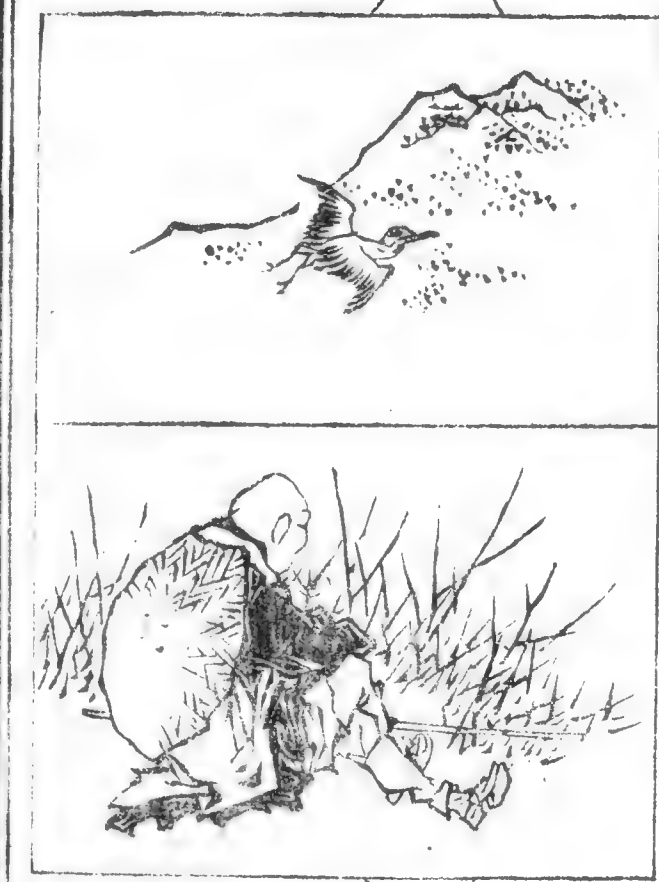
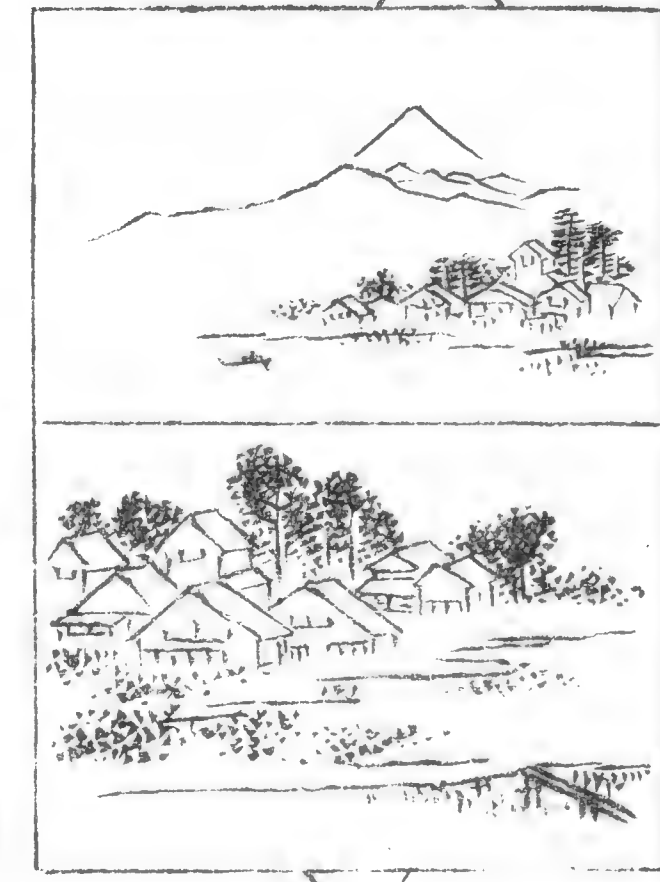


あゝ山乃
まづけ
こゝろふ
かゝろひて
わしにまゐる
ちひのちひのあ



何



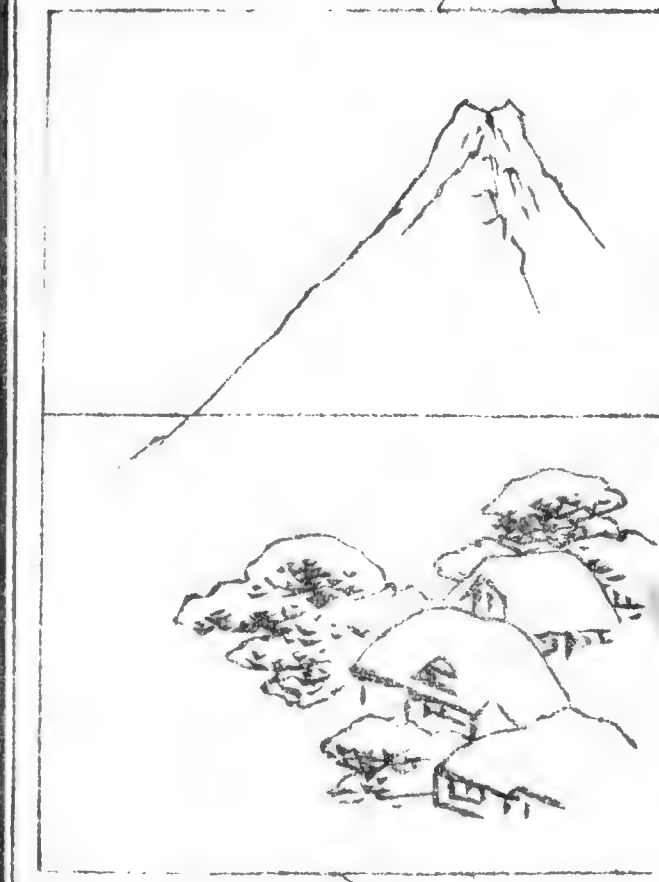
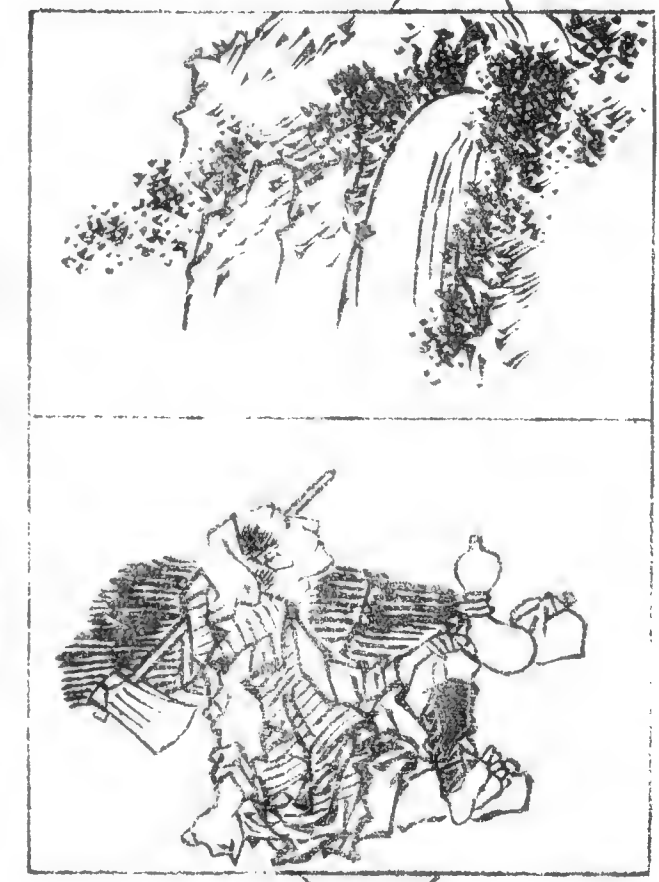


格 附 録
 雑 録
 開 所 地

箱 附 録
 文 部 省

十一

月



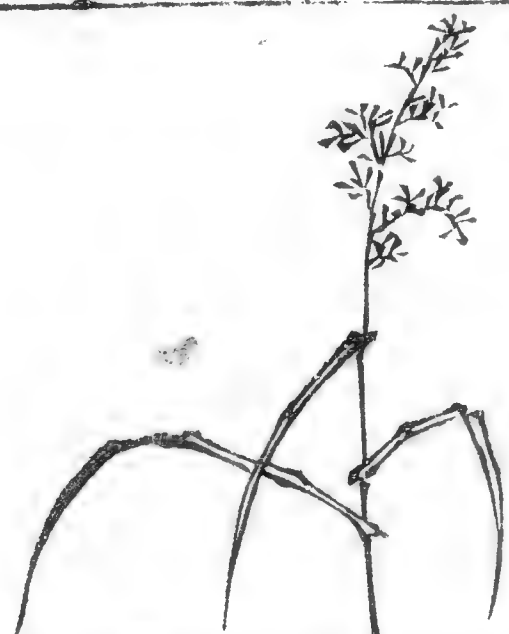
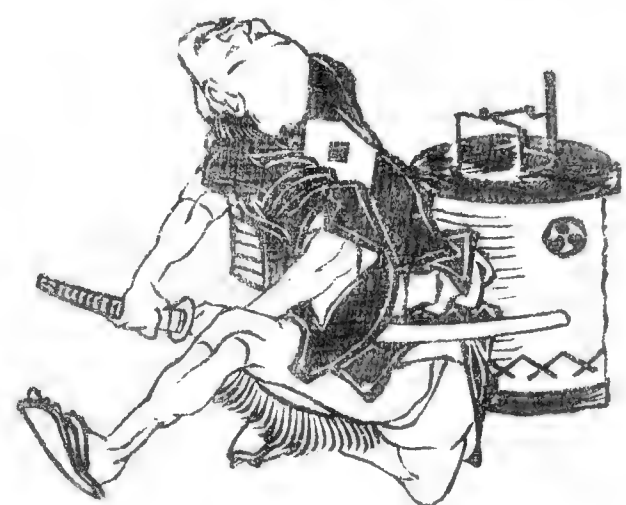
こまひり大さるるありまるみ
 ろひりやう大さるるありまるみ



節 金 佳 形

鑑 之 部

十三



四一

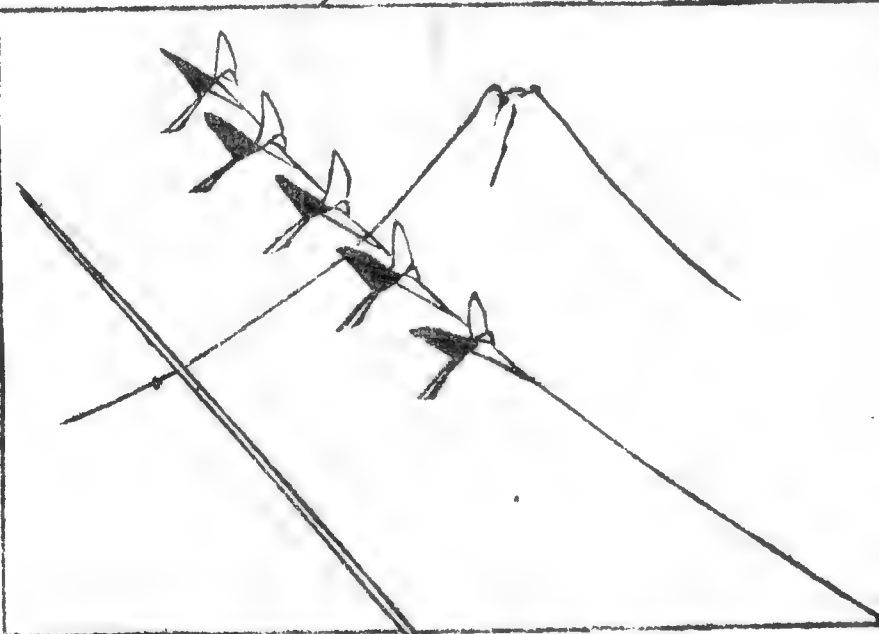
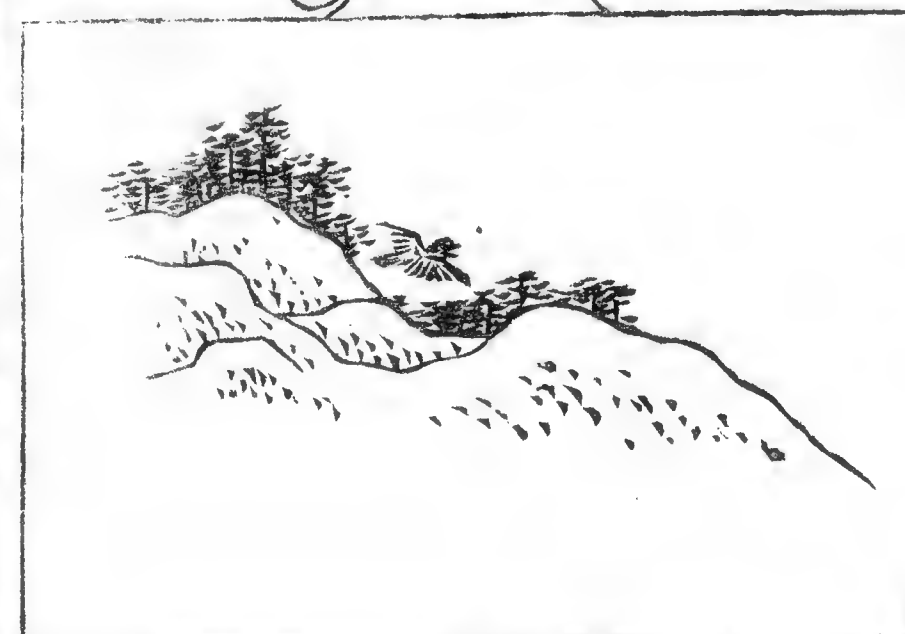


江戸参府の
りやうあり

[illegible]

籀文音

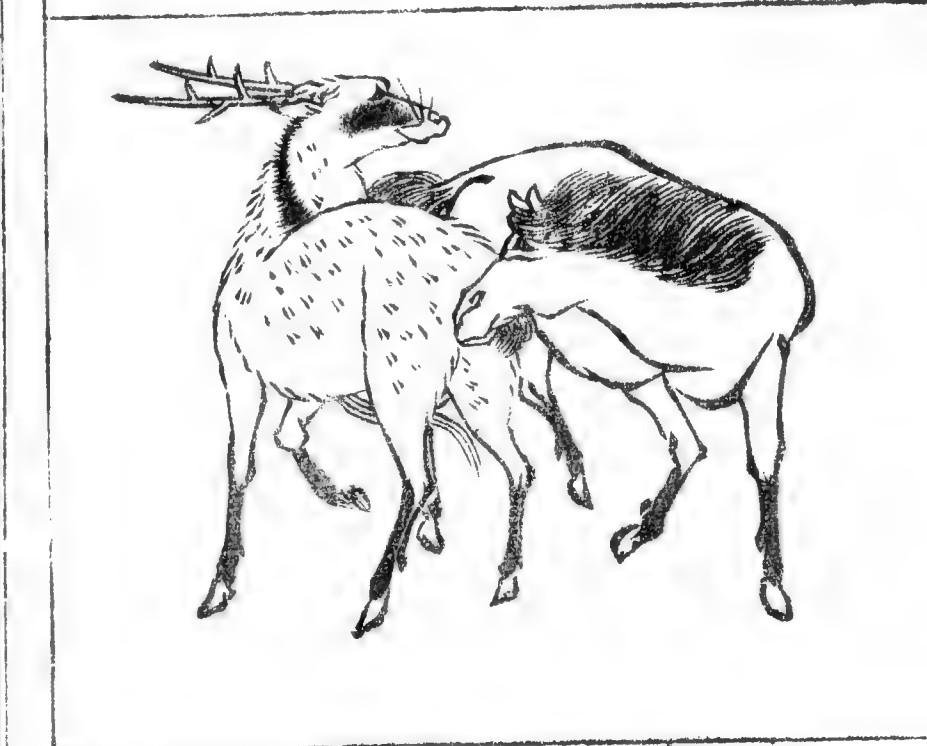
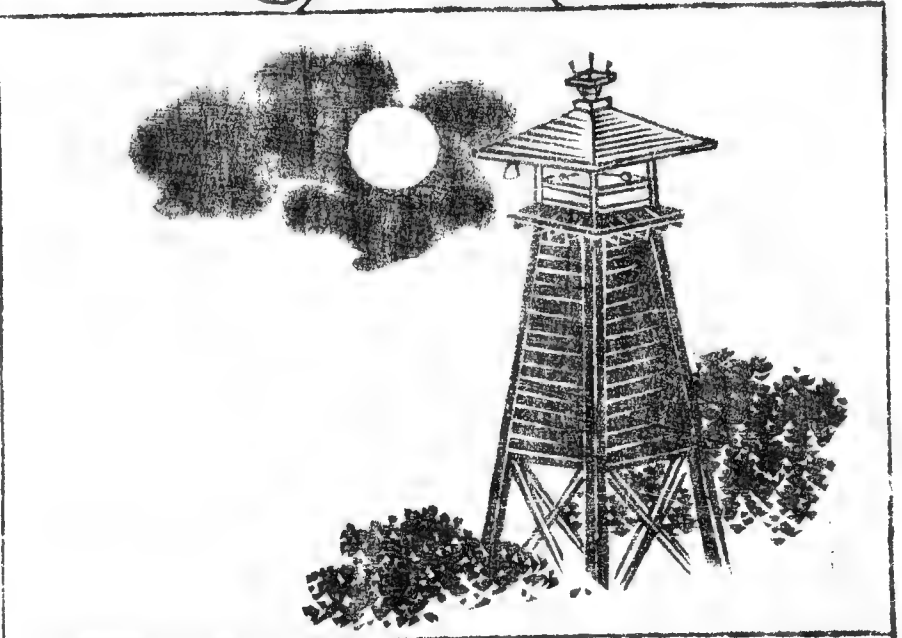
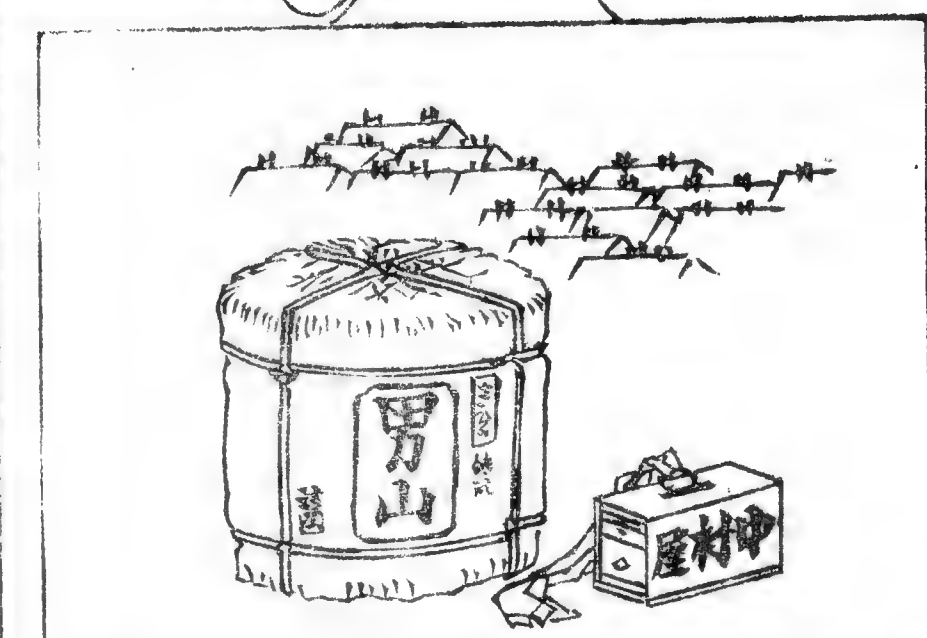
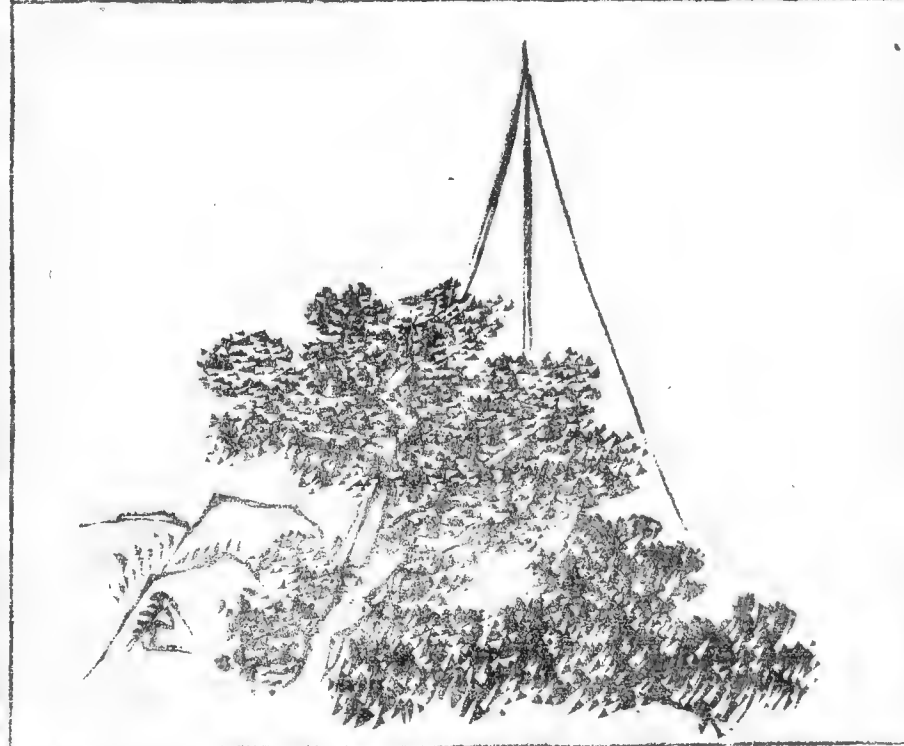
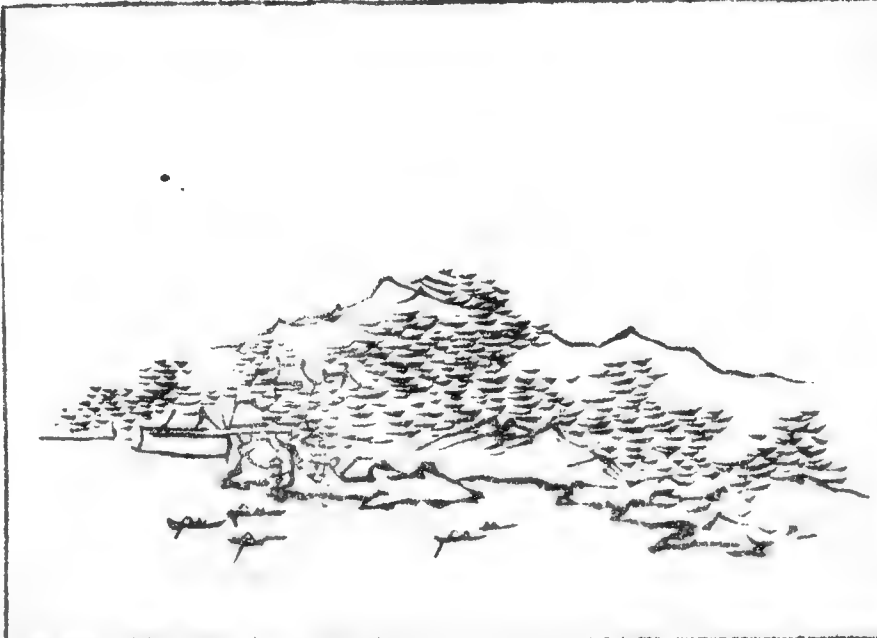
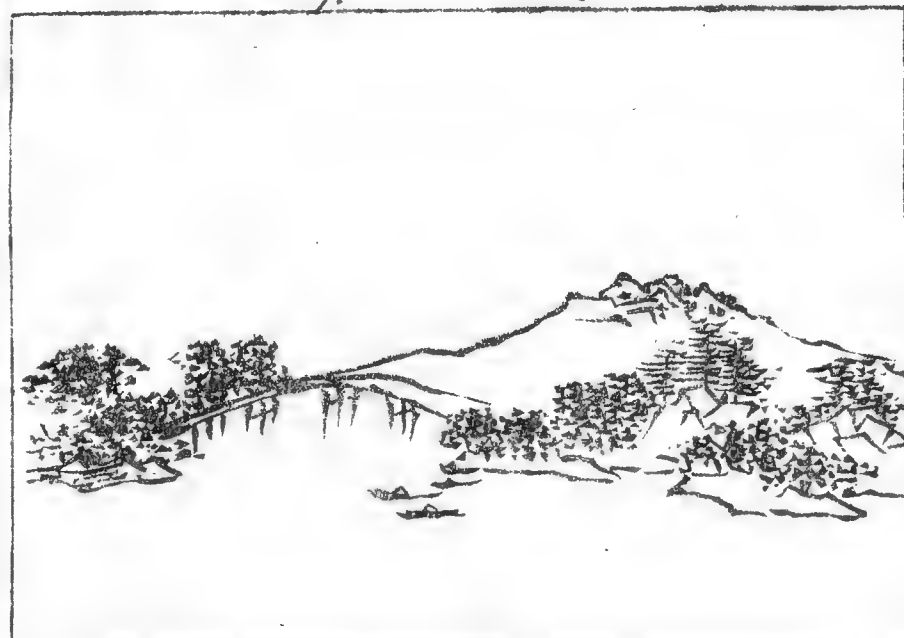
三

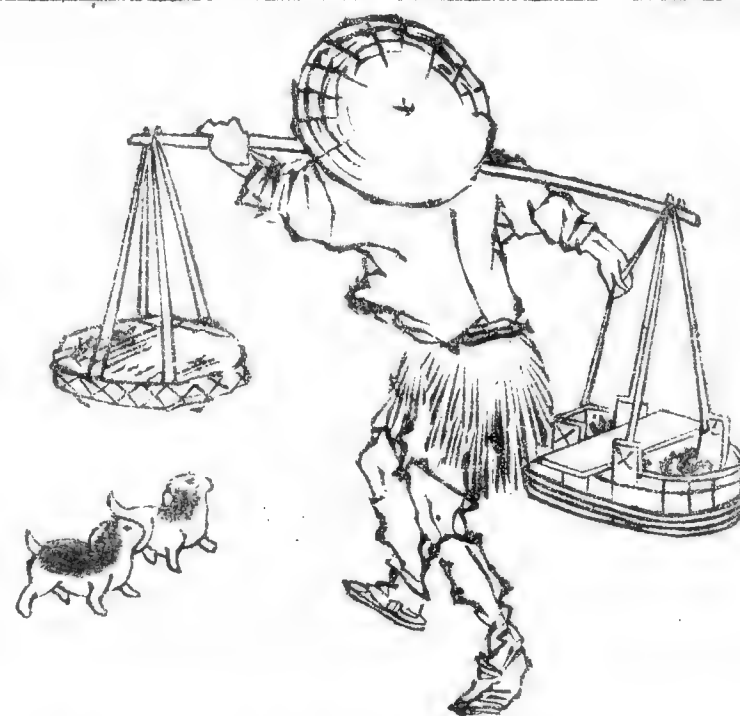
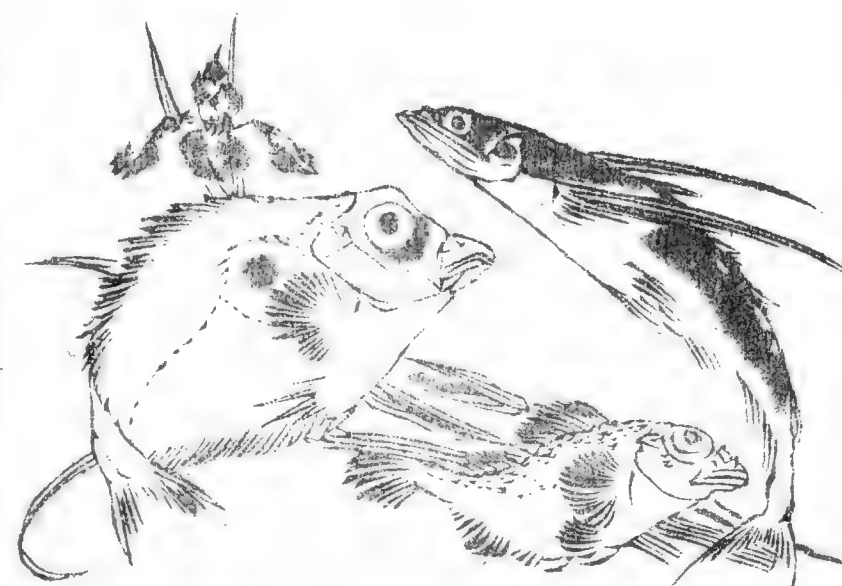
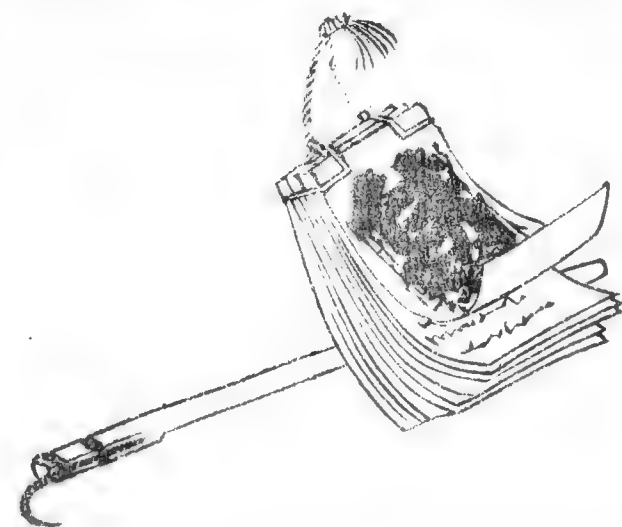
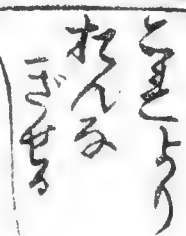


節
金
維
杉
卷
之
部
五

節
金
維
杉
卷
之
部
五

廿
四



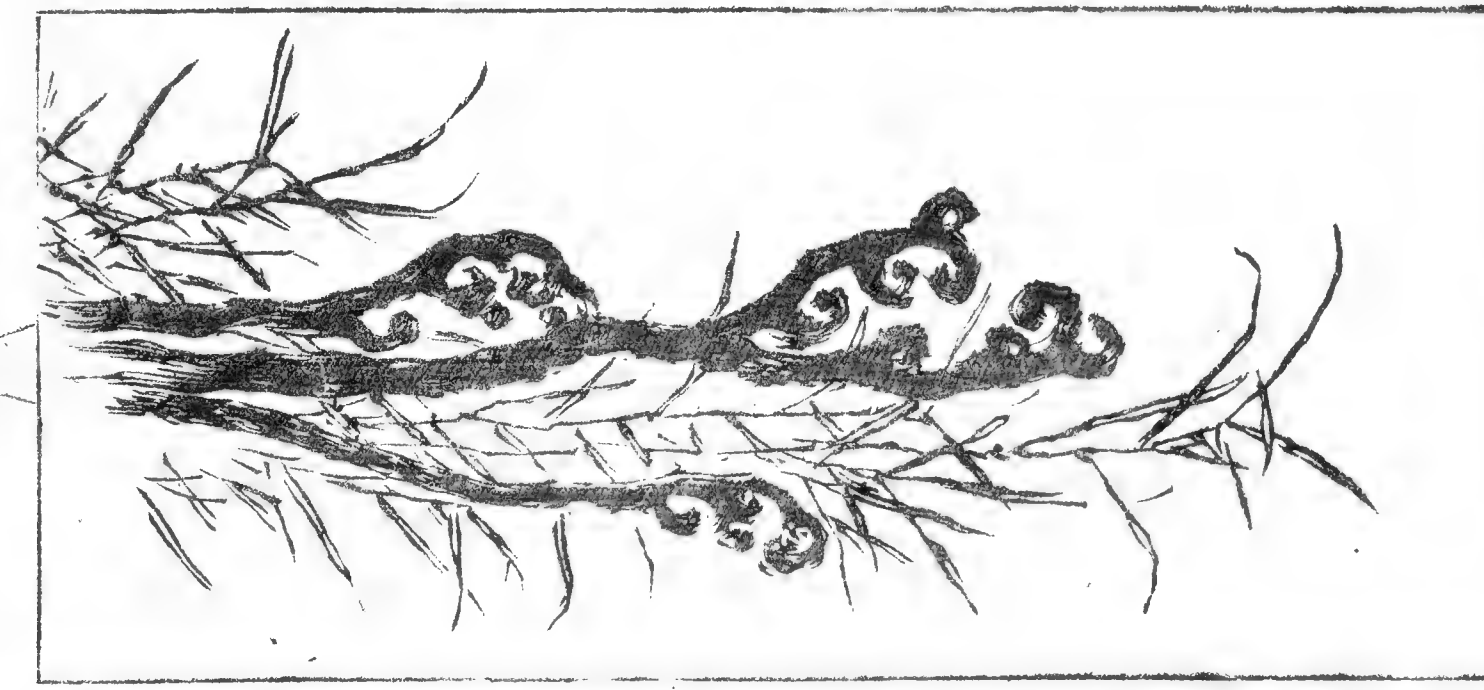
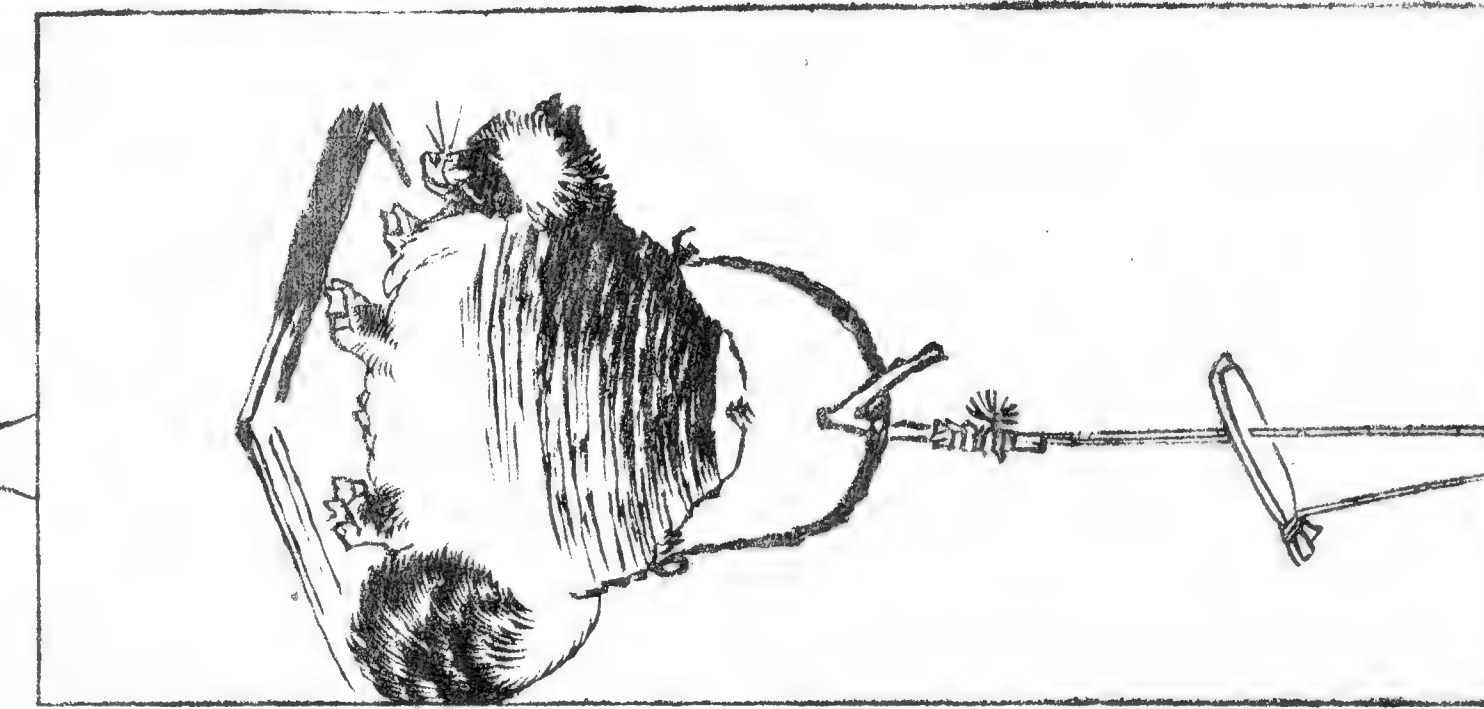
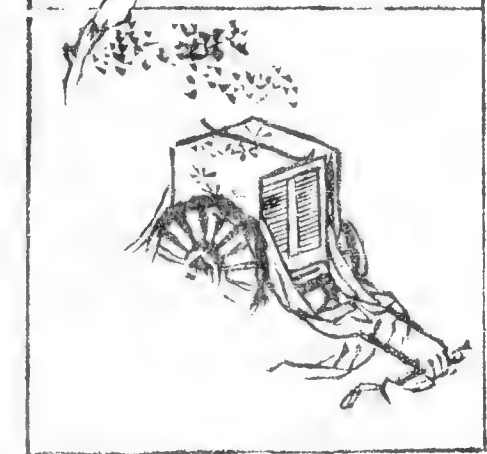
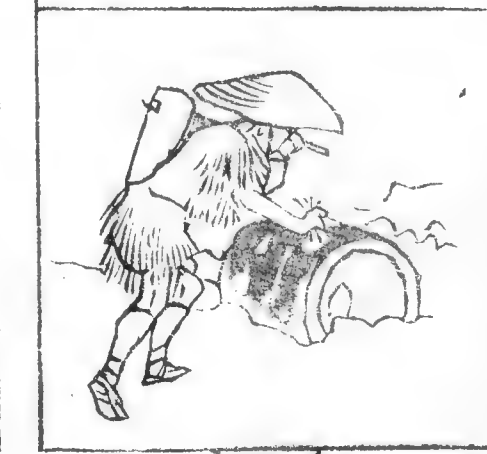
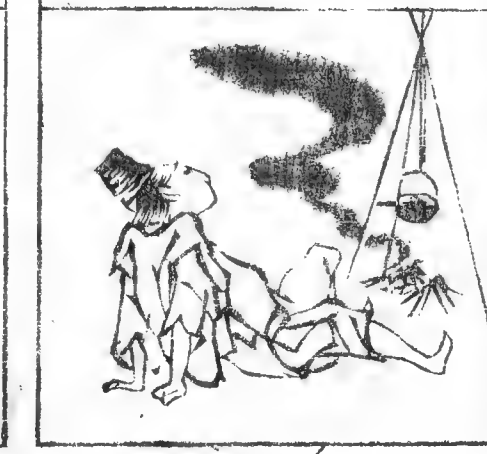
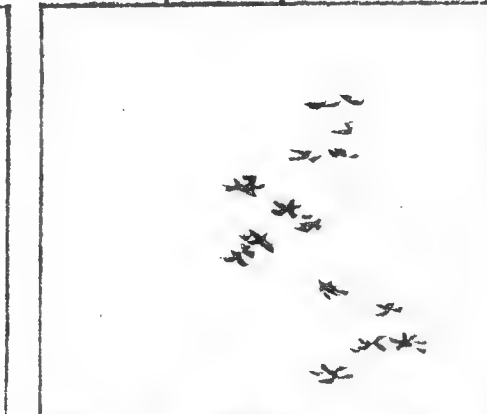


柳 柳 柳 柳 柳
 柳 柳 柳 柳 柳
 柳 柳 柳 柳 柳
 柳 柳 柳 柳 柳

柳 柳 柳 柳 柳
 柳 柳 柳 柳 柳
 柳 柳 柳 柳 柳
 柳 柳 柳 柳 柳

柳 柳 柳 柳 柳
 柳 柳 柳 柳 柳
 柳 柳 柳 柳 柳
 柳 柳 柳 柳 柳

月ねる
 むき
 こ



北
 ちり

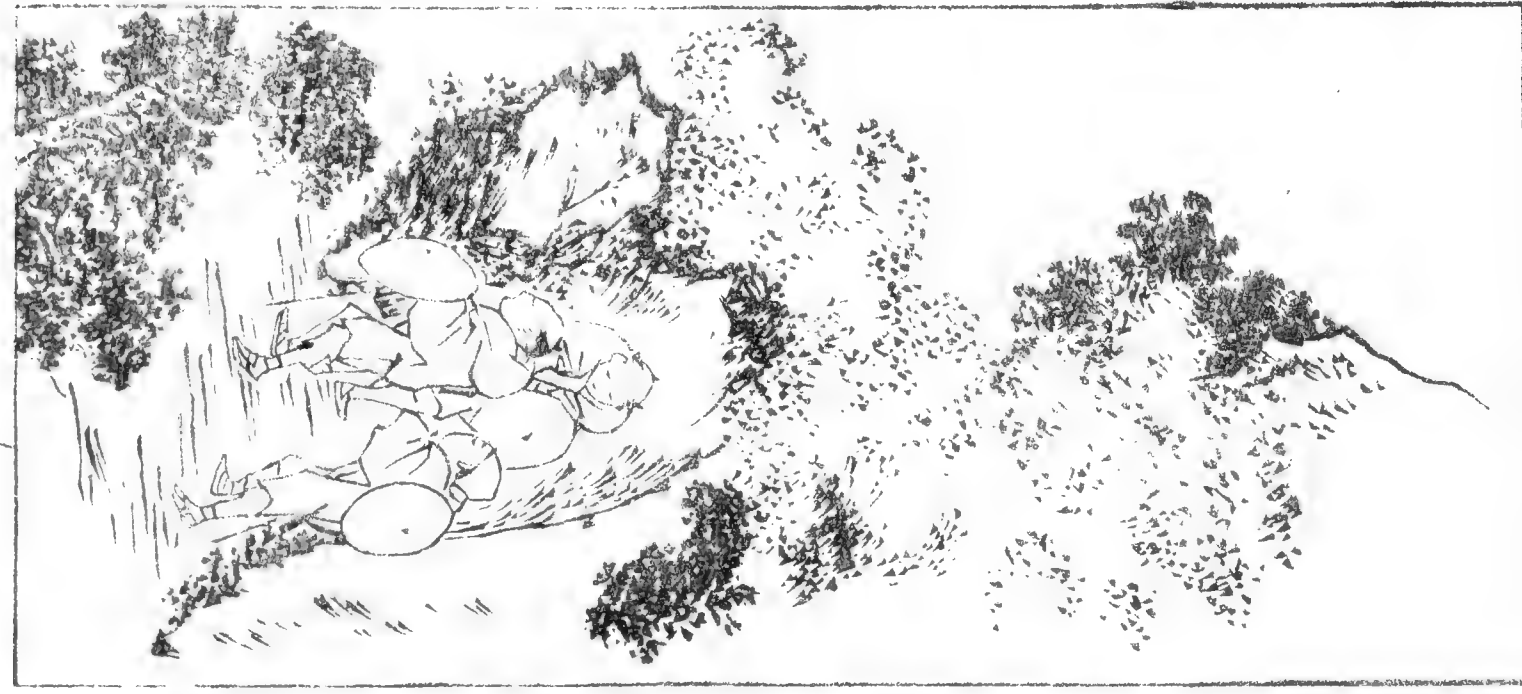
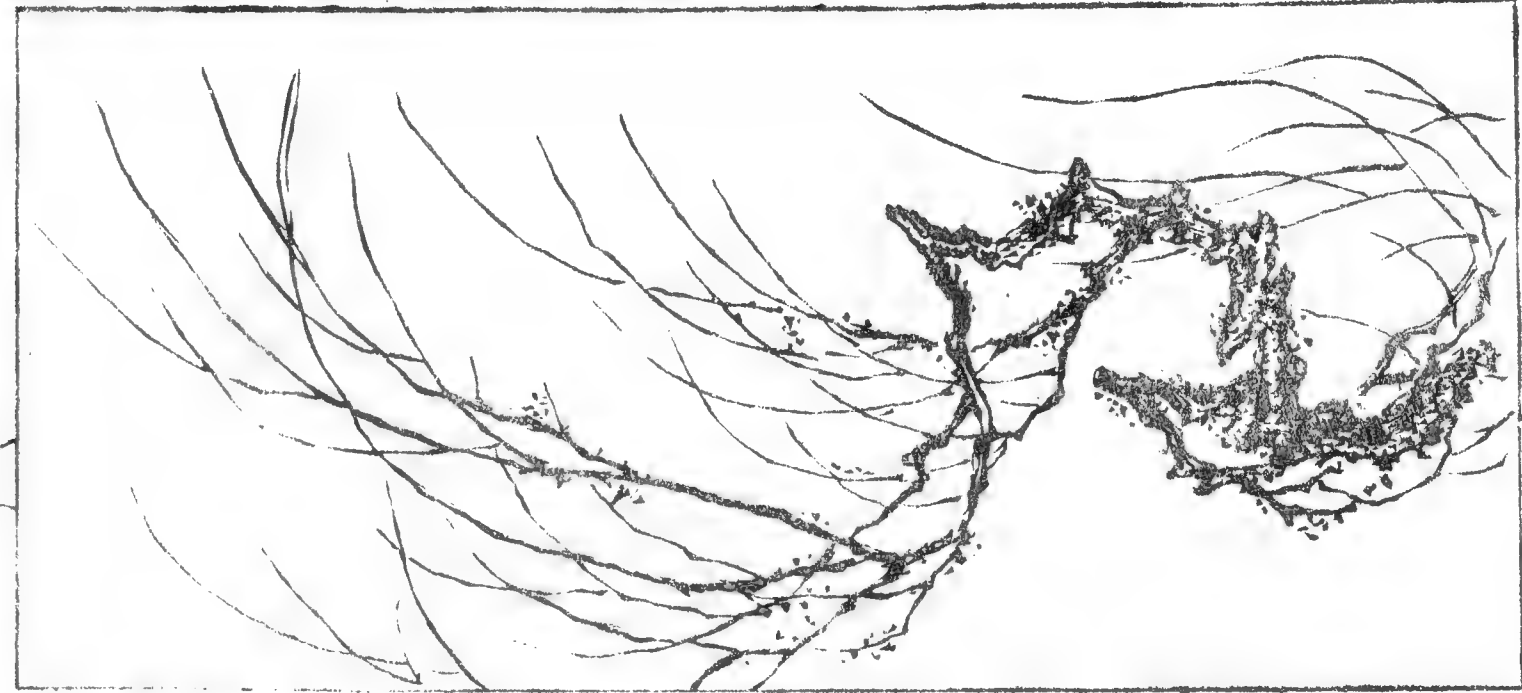
柳 柳 柳 柳 柳
 柳 柳 柳 柳 柳
 柳 柳 柳 柳 柳
 柳 柳 柳 柳 柳

柳 柳 柳 柳 柳
 柳 柳 柳 柳 柳
 柳 柳 柳 柳 柳
 柳 柳 柳 柳 柳

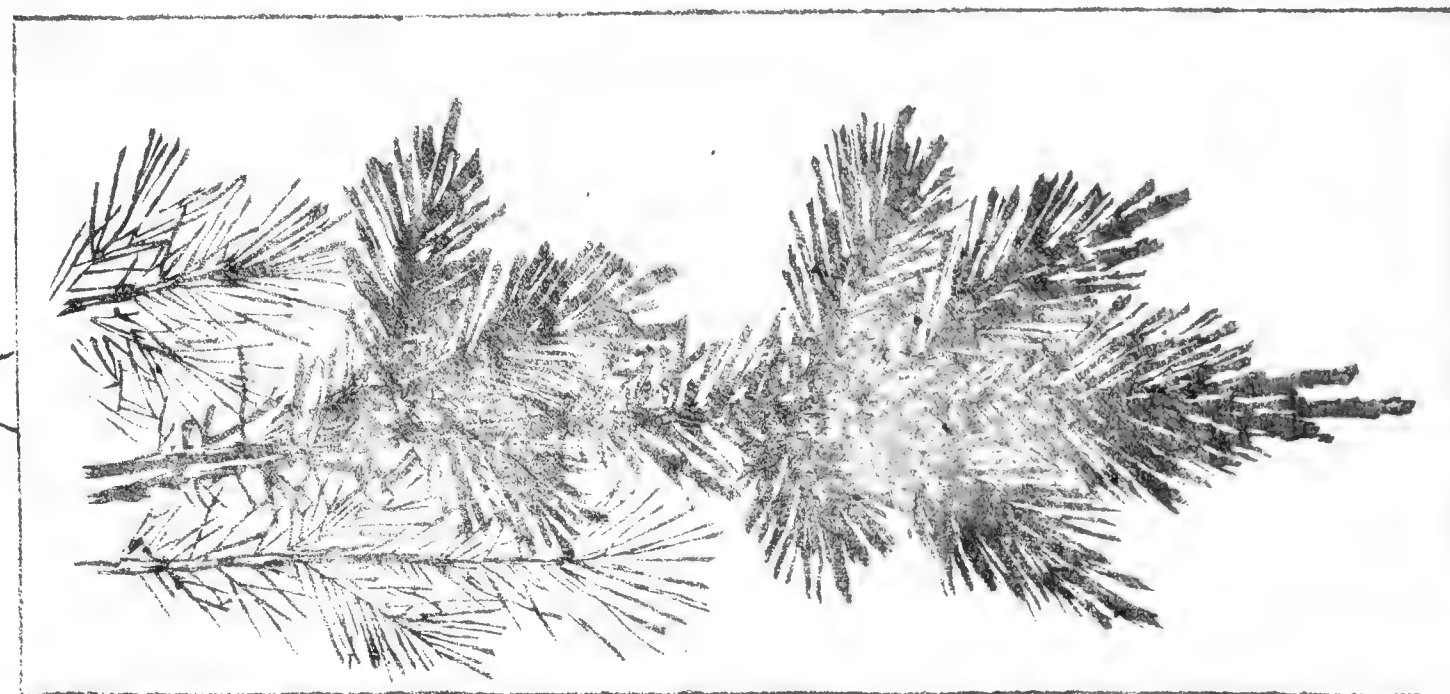
柳 柳 柳 柳 柳
 柳 柳 柳 柳 柳
 柳 柳 柳 柳 柳
 柳 柳 柳 柳 柳

竹
 節
 金
 雀
 之
 部
 十
 九

れあぐ



日



節
 金
 雀
 之
 部
 十
 九

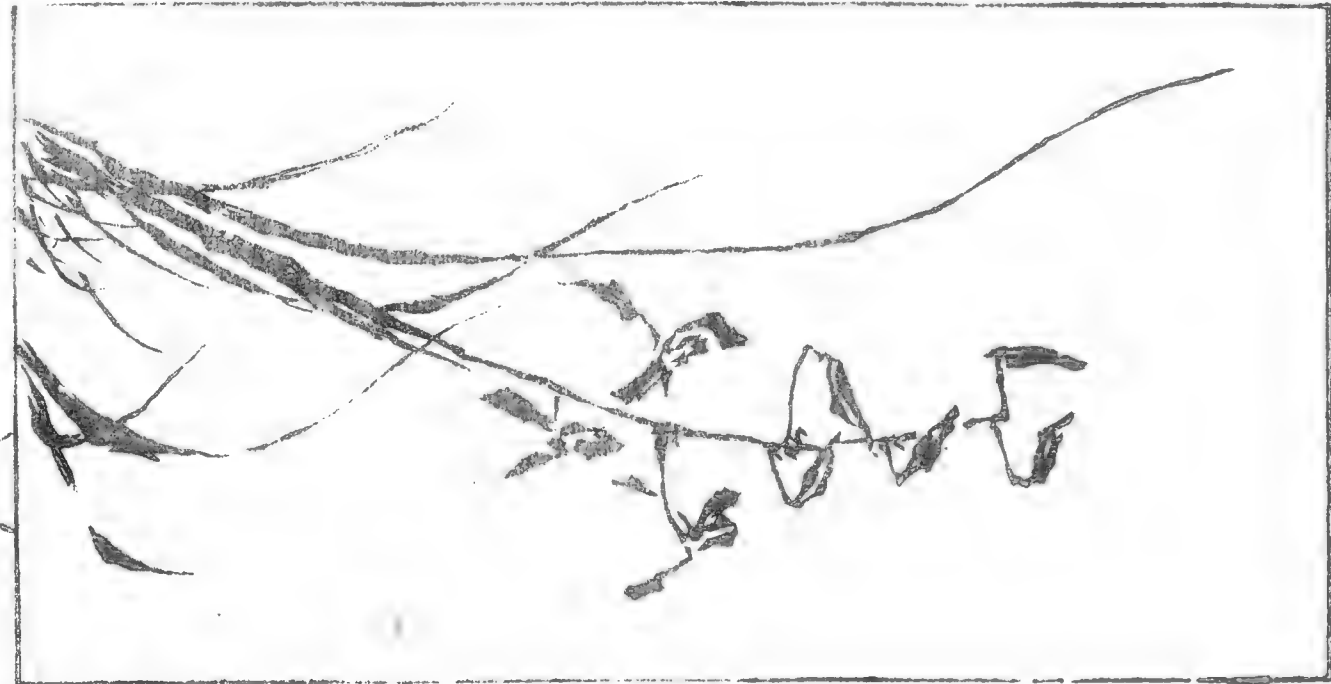
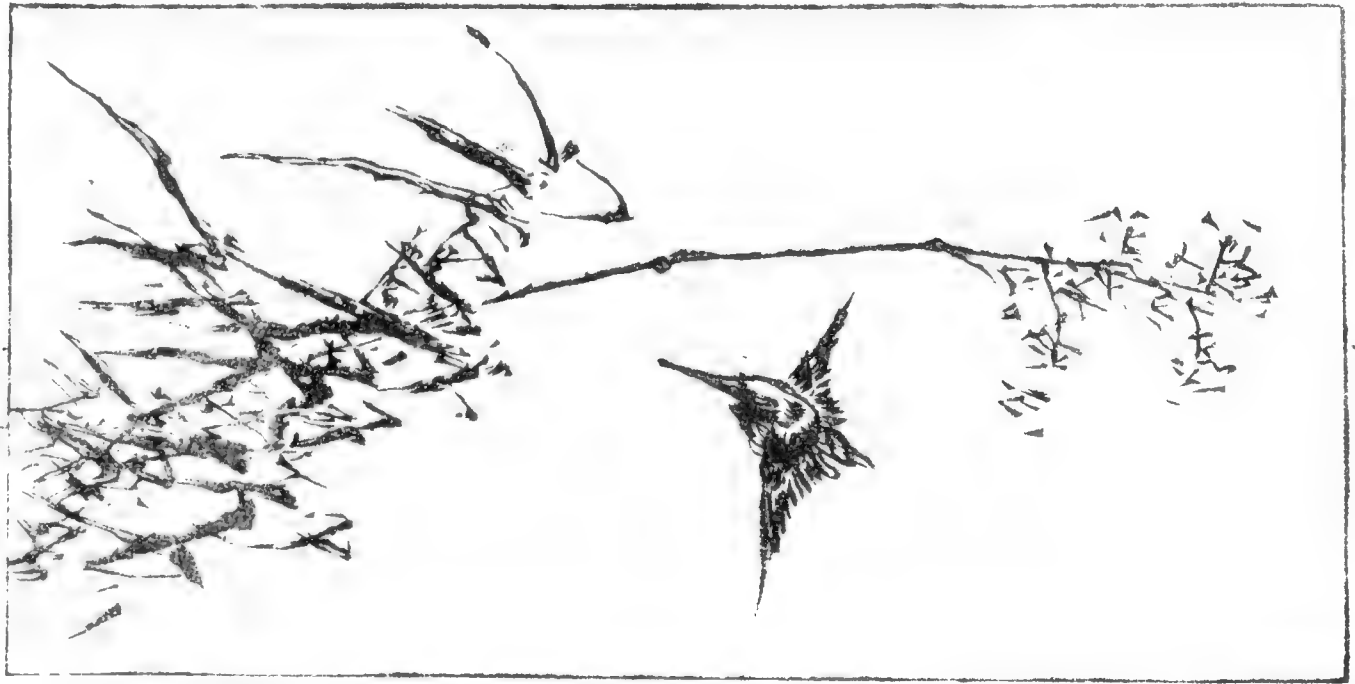
柳 金 雀 花 開

柳 金 雀 花 開

十六



花 雀

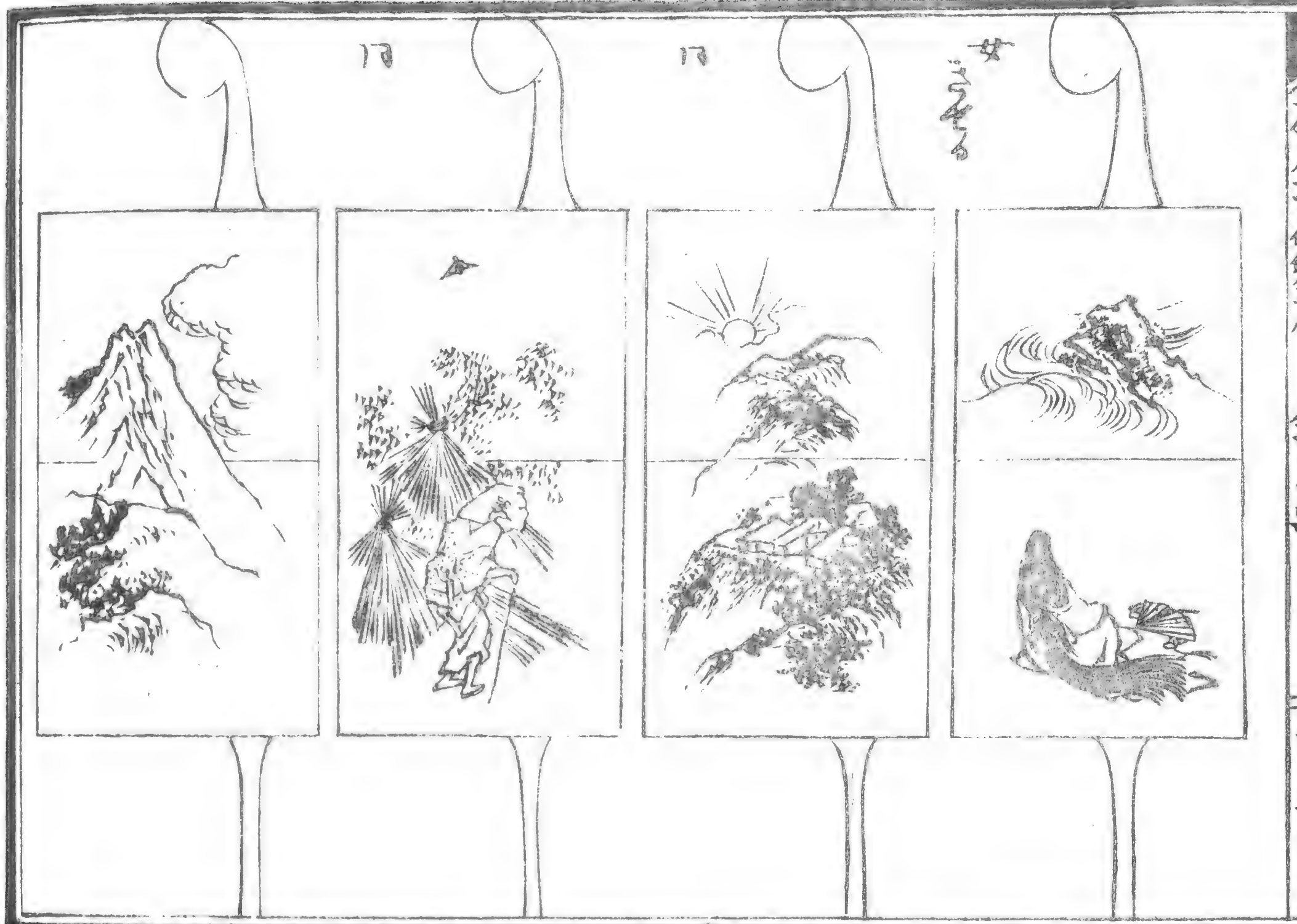
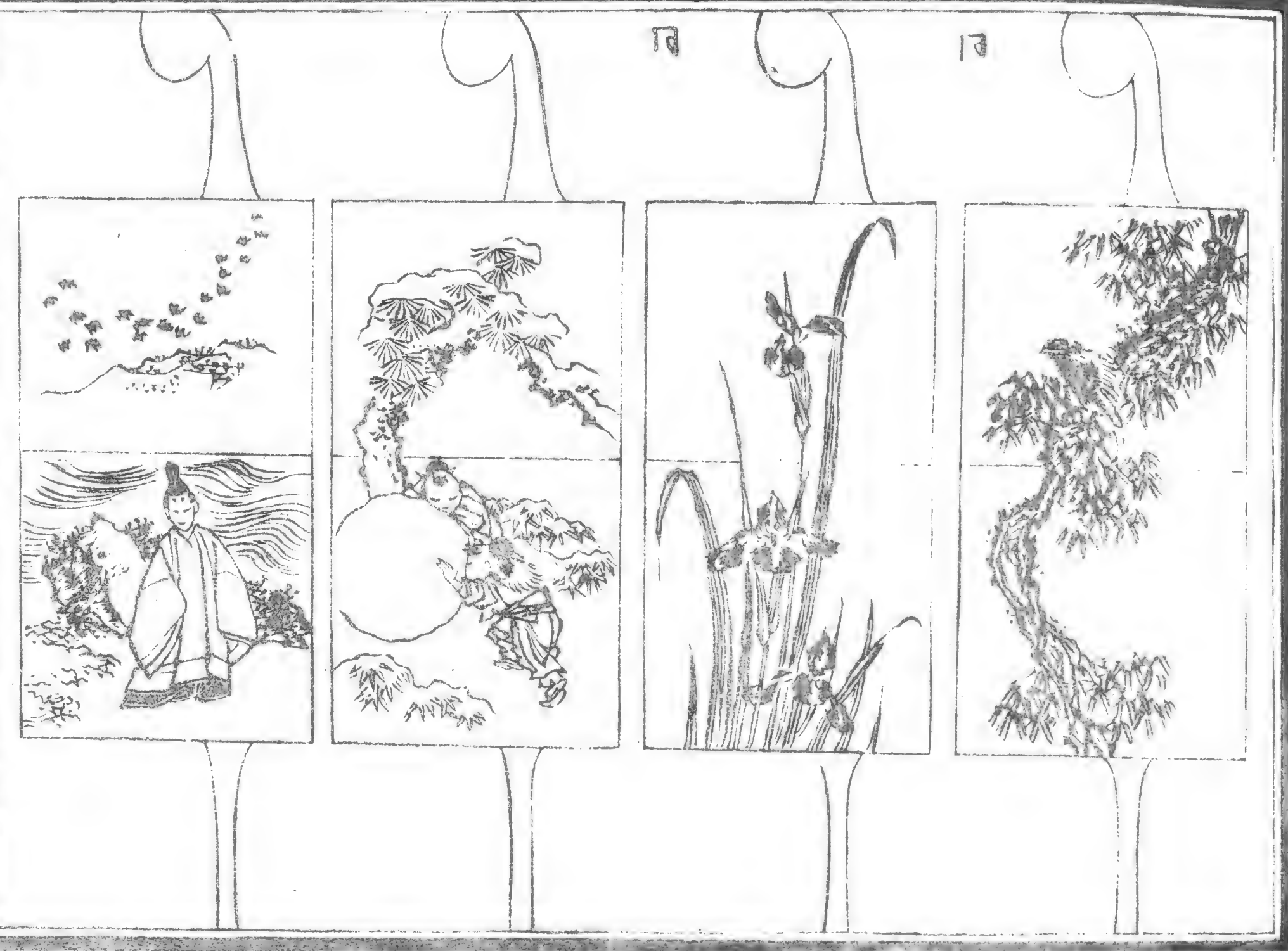


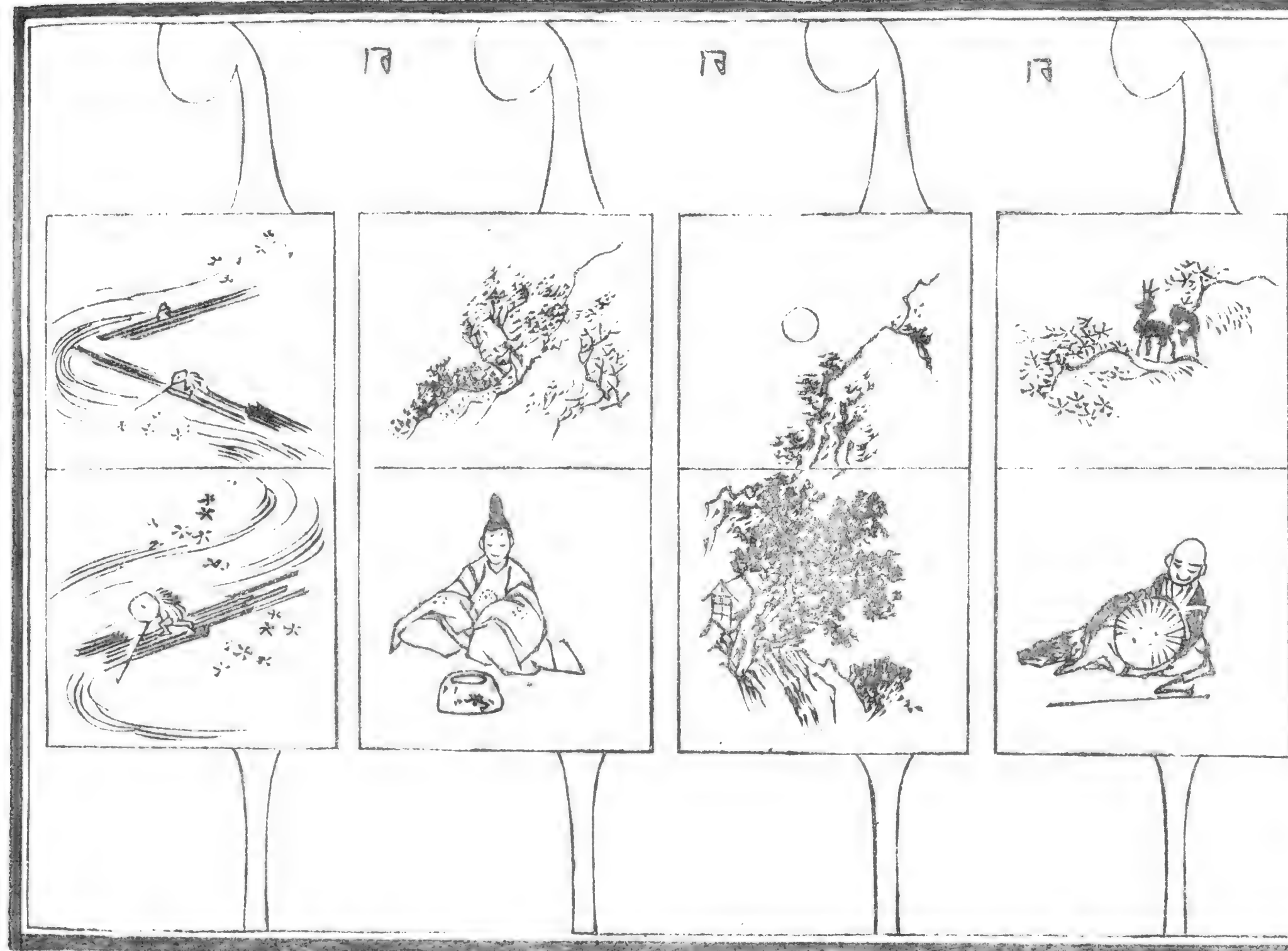
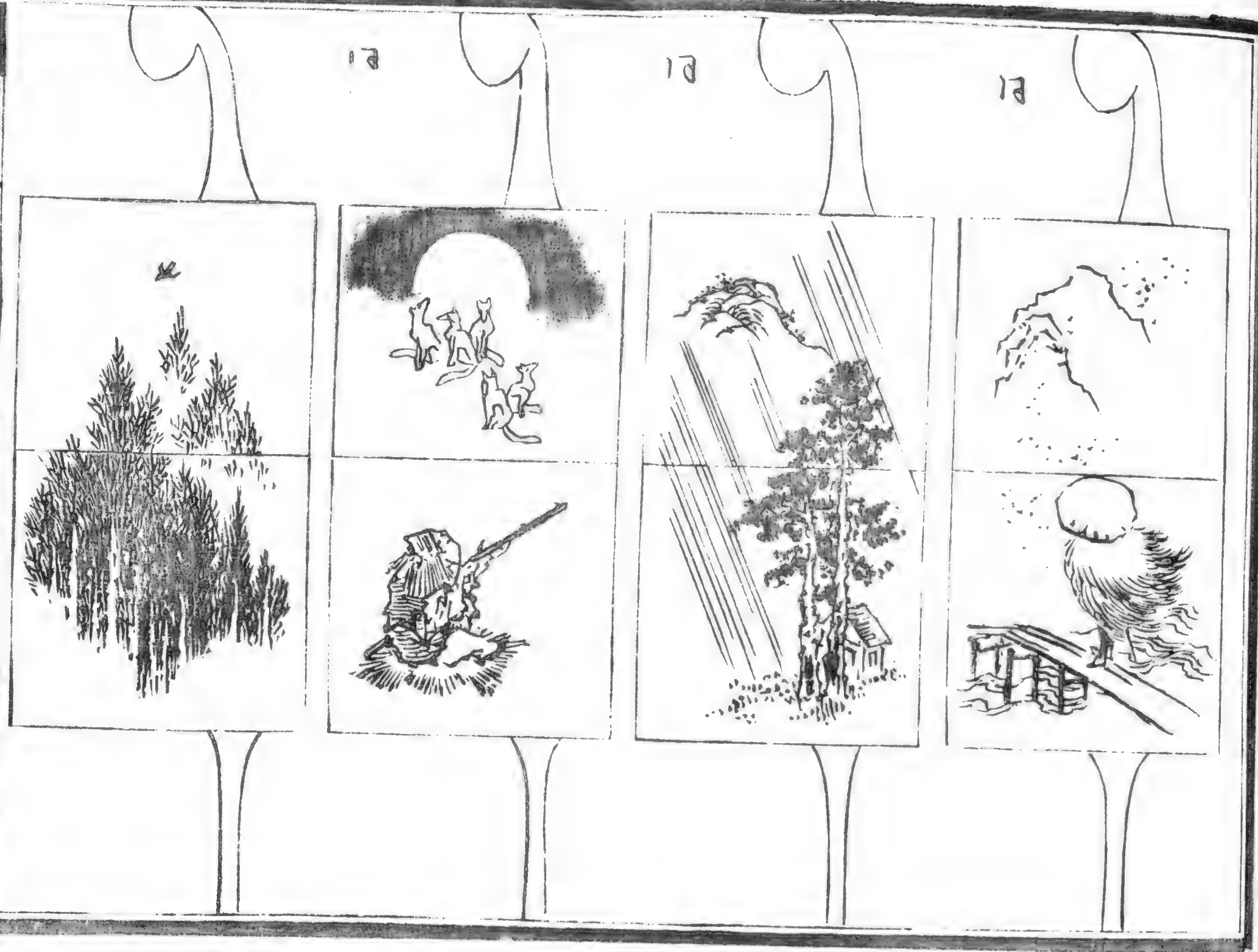
花 雀

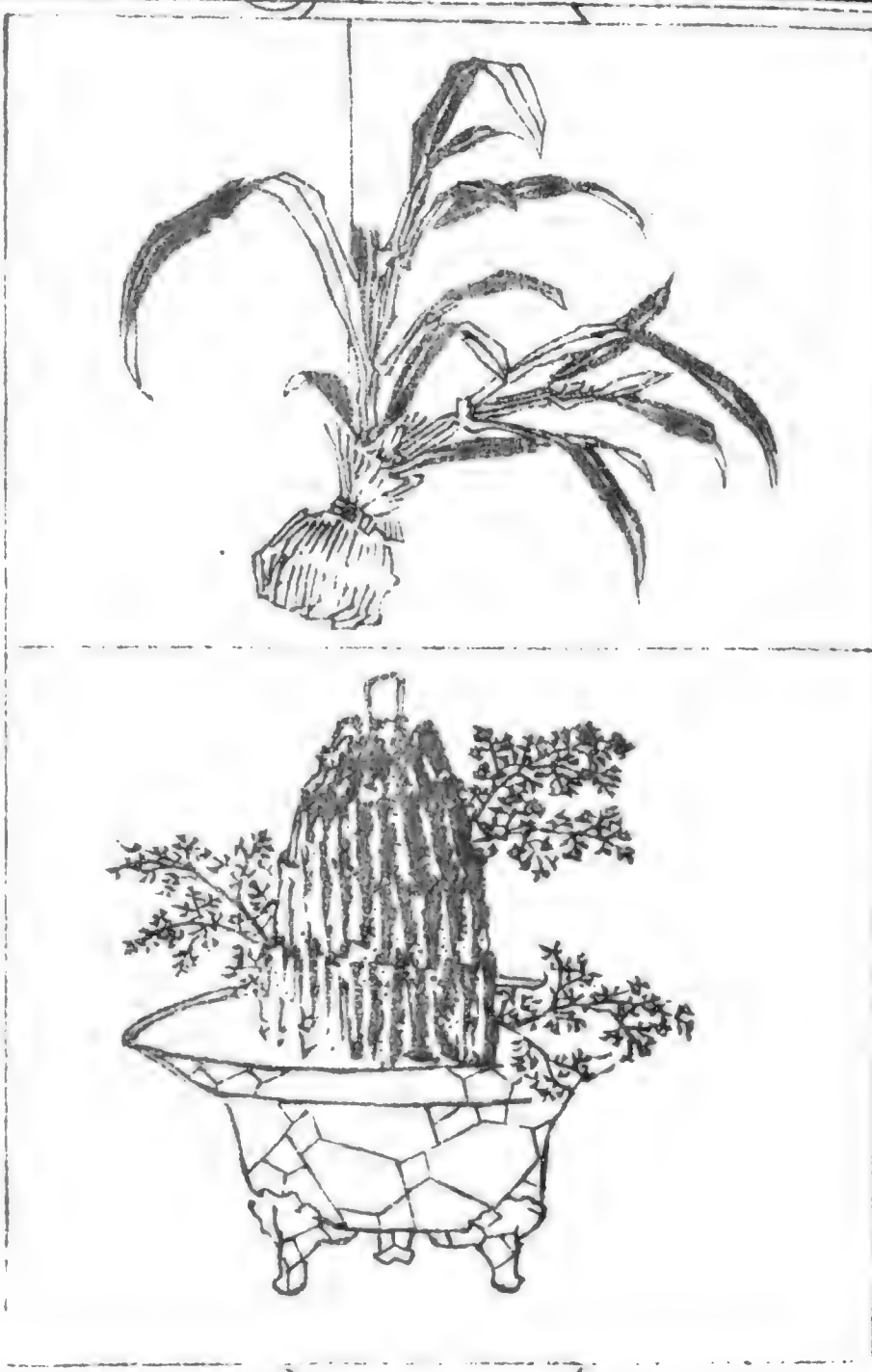


柳 金 雀 花 開

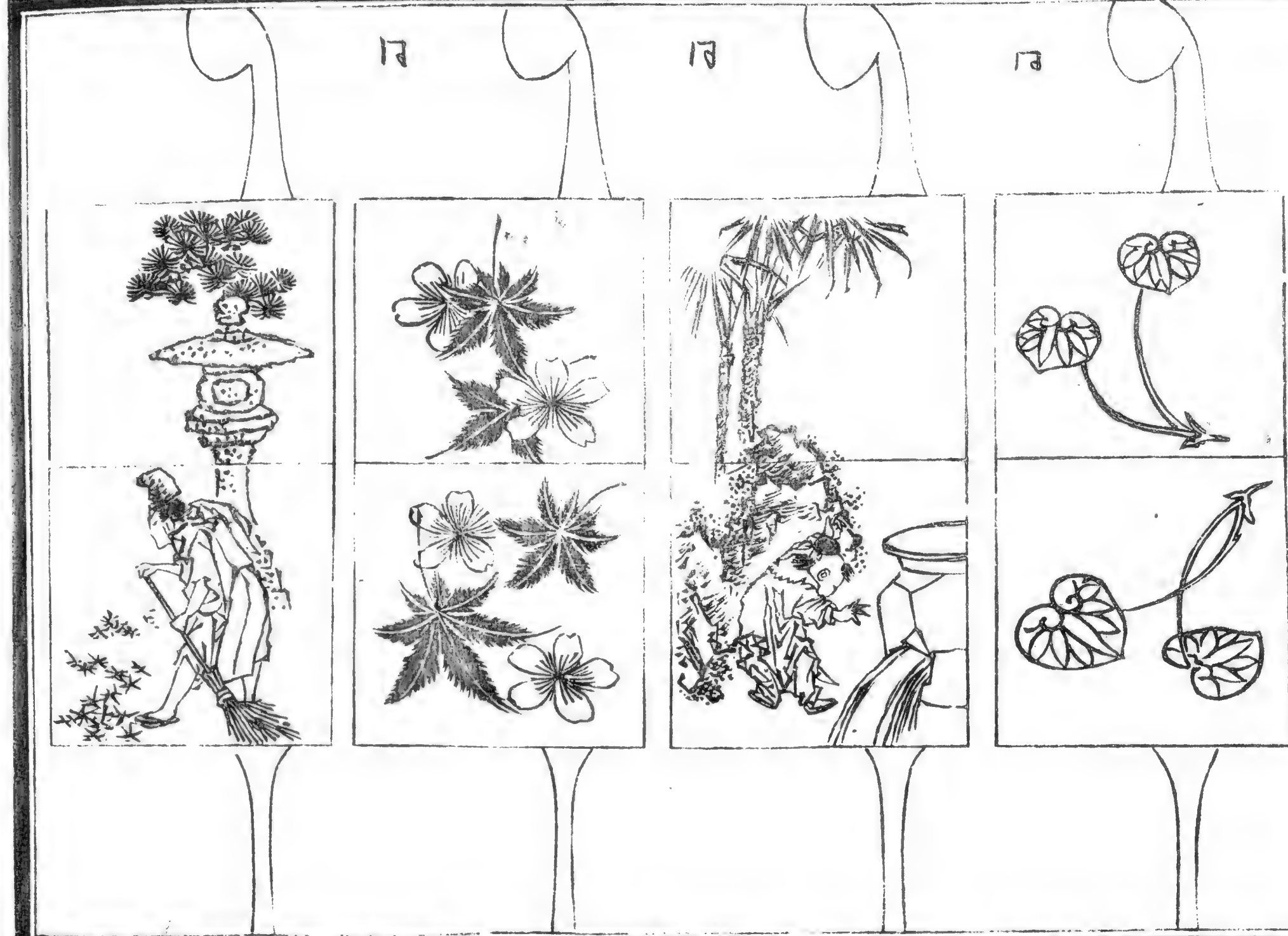
十六



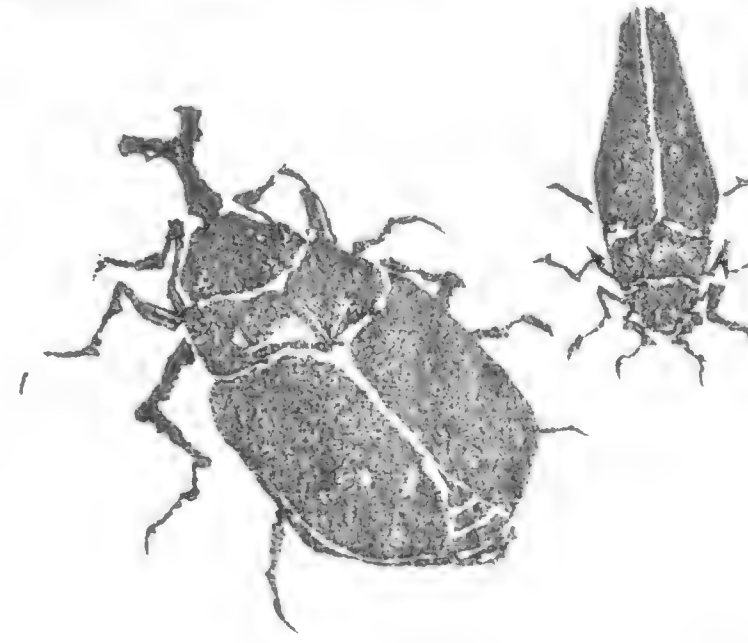
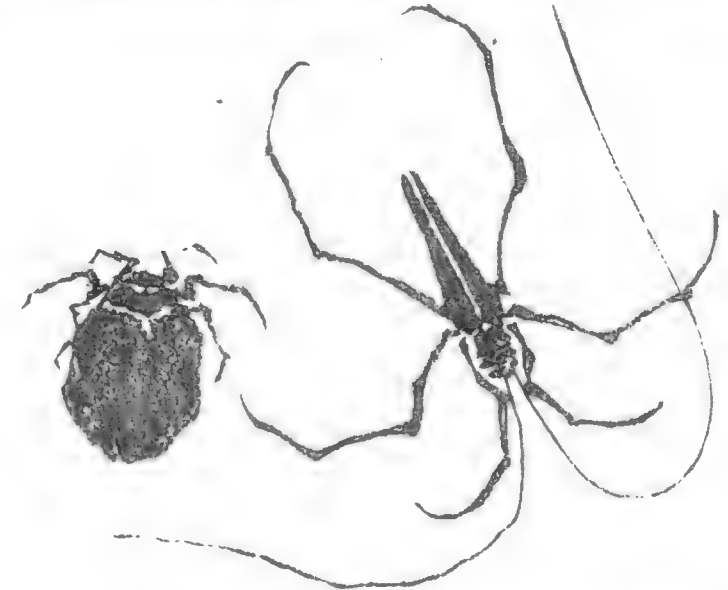
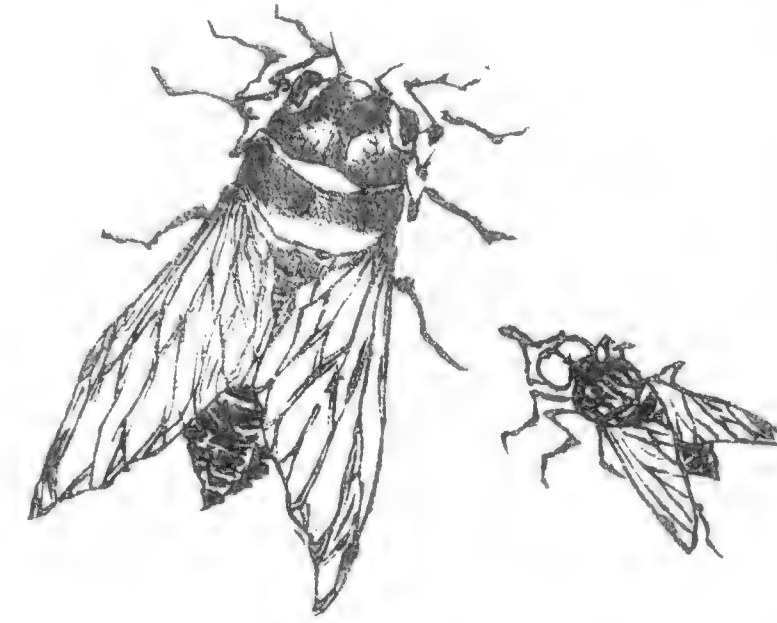
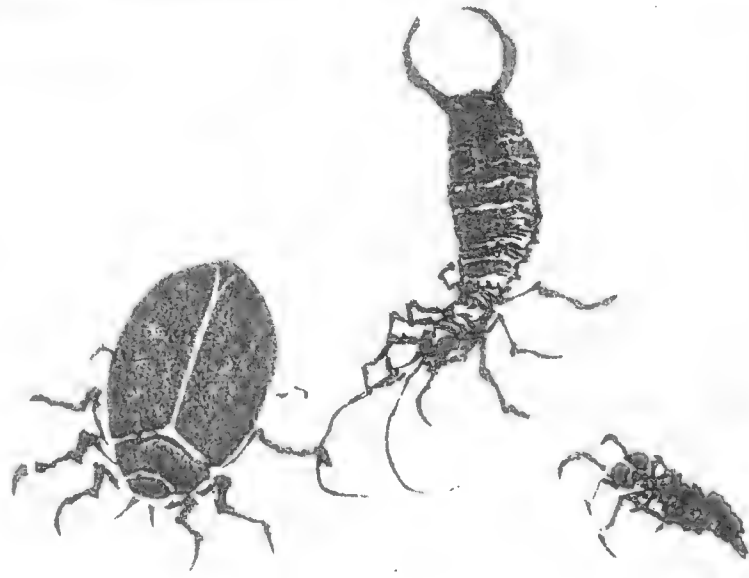




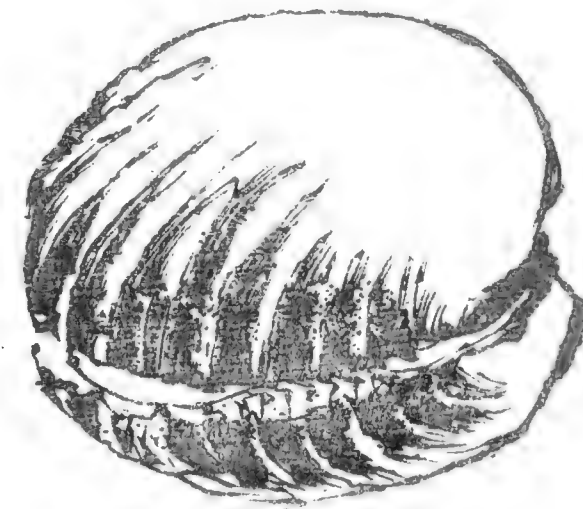
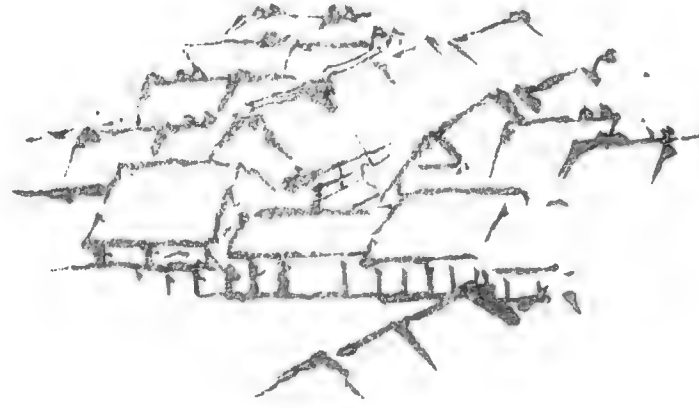
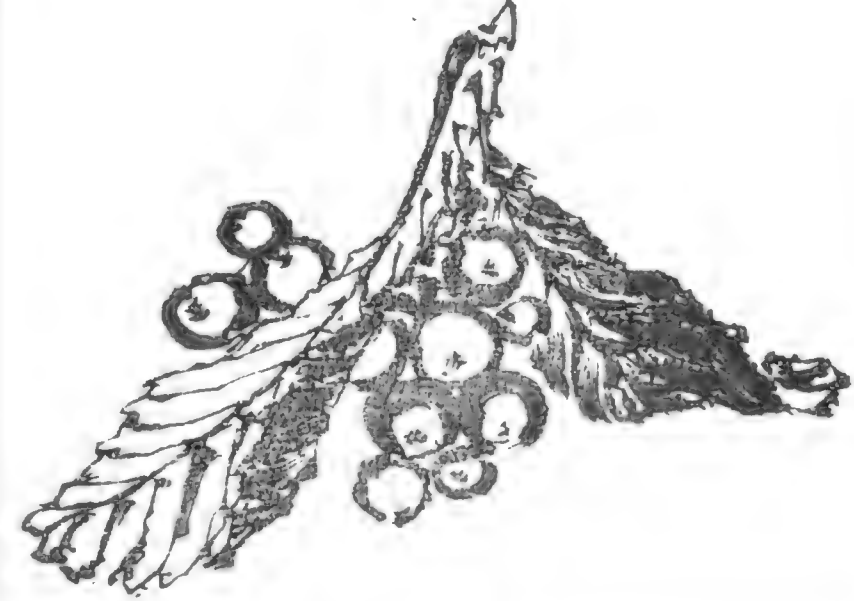
ふとねさき



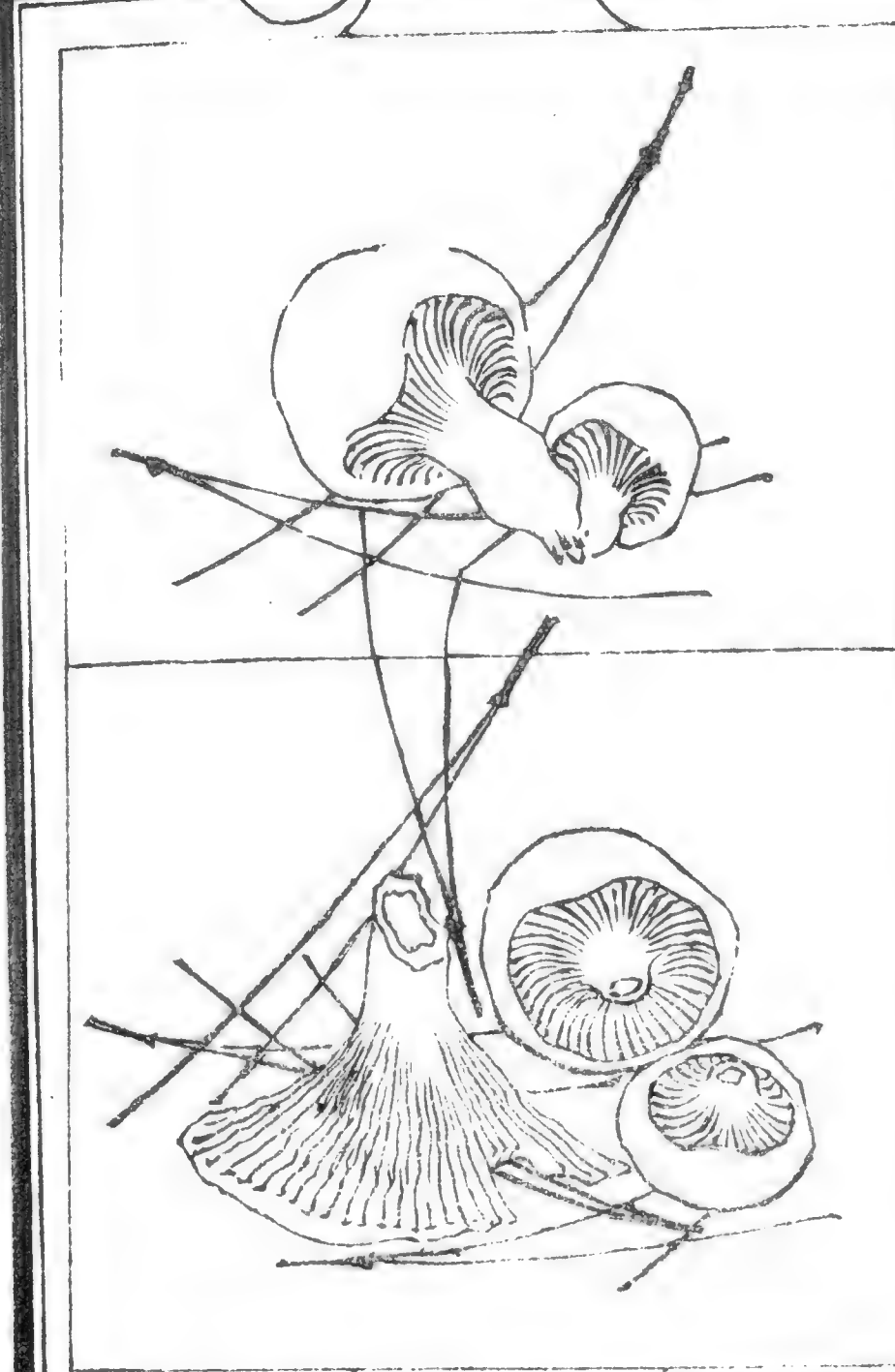
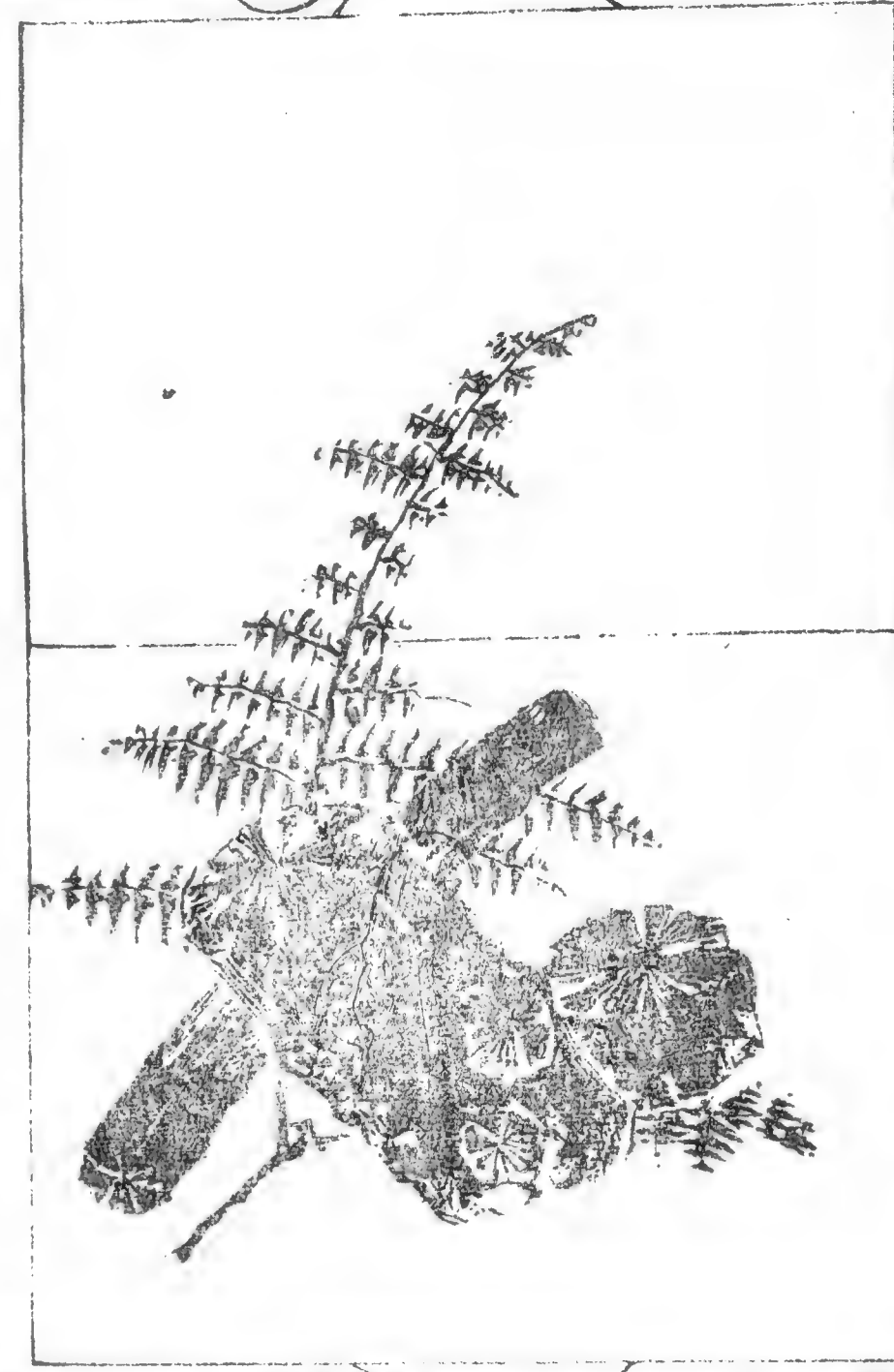
たろじ



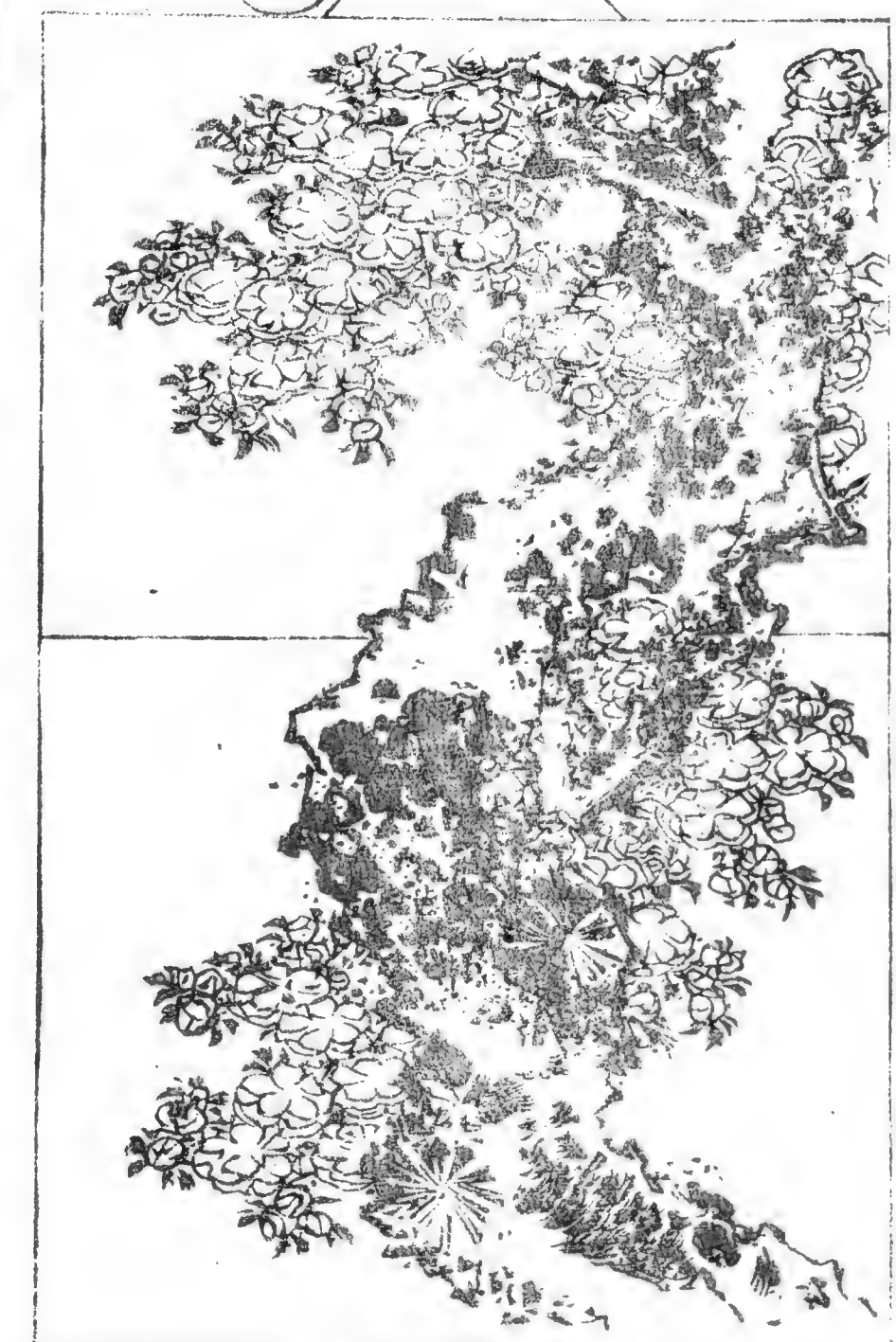
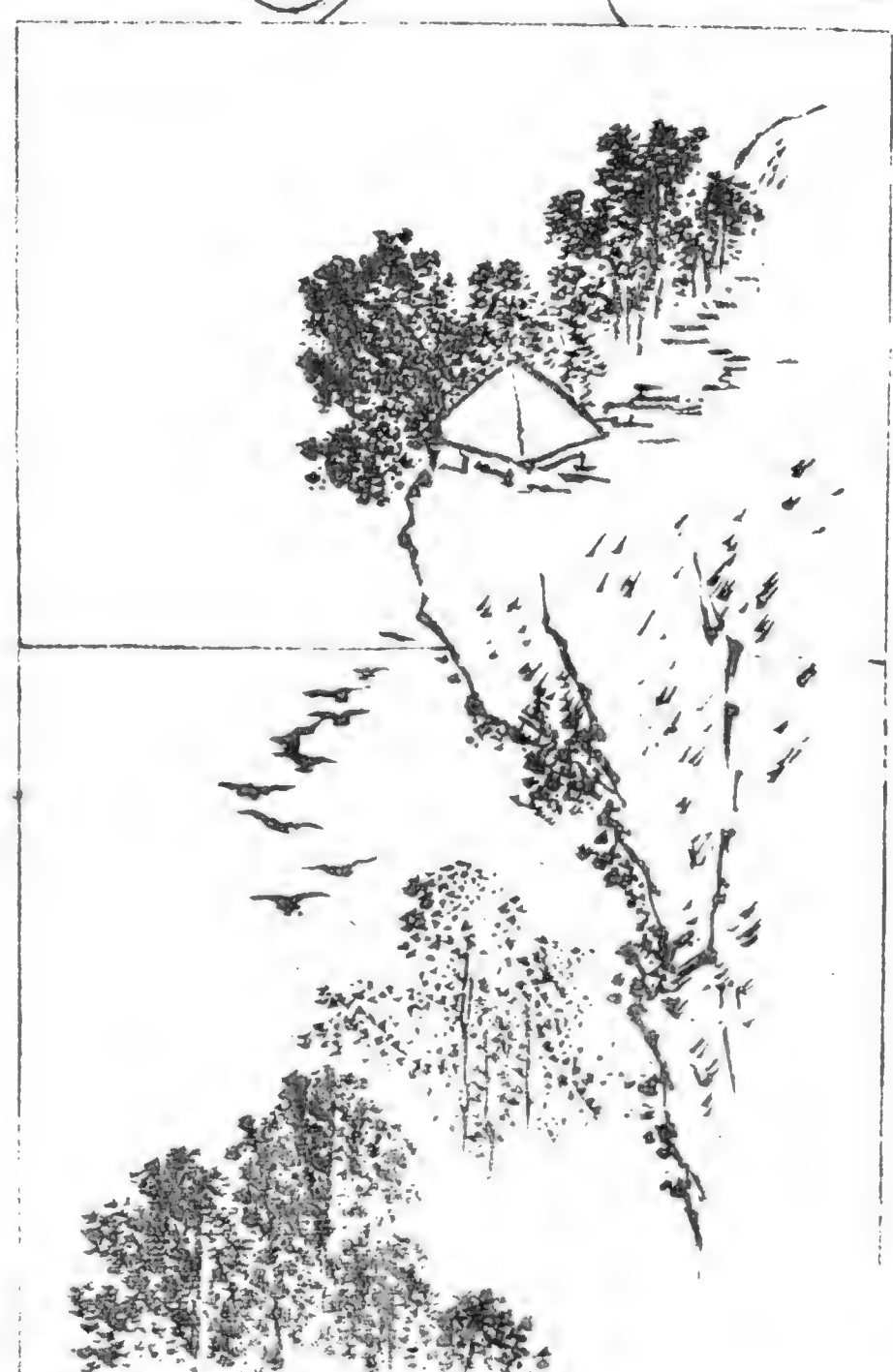
ふとむり



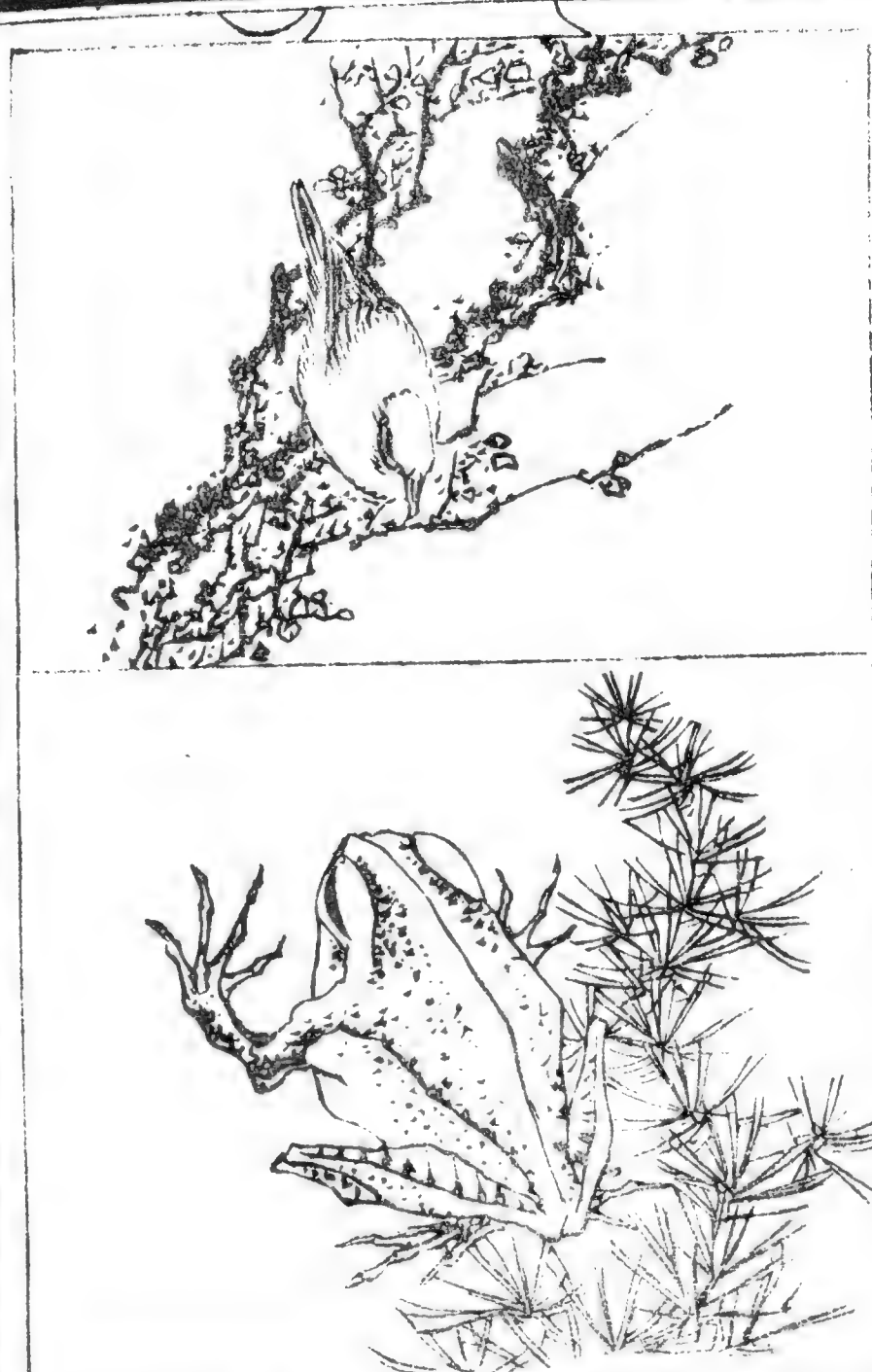
月



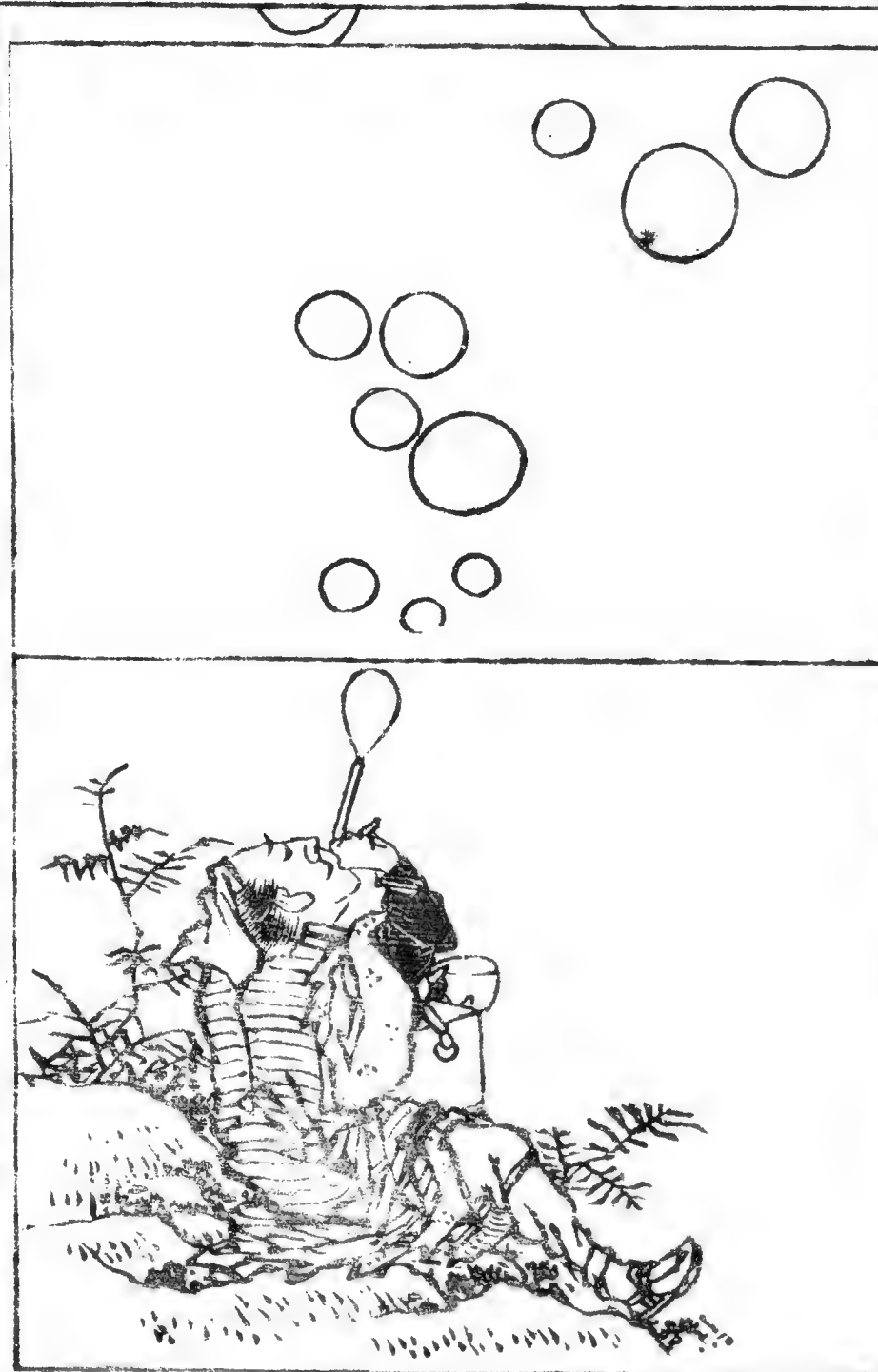
ねるい



日

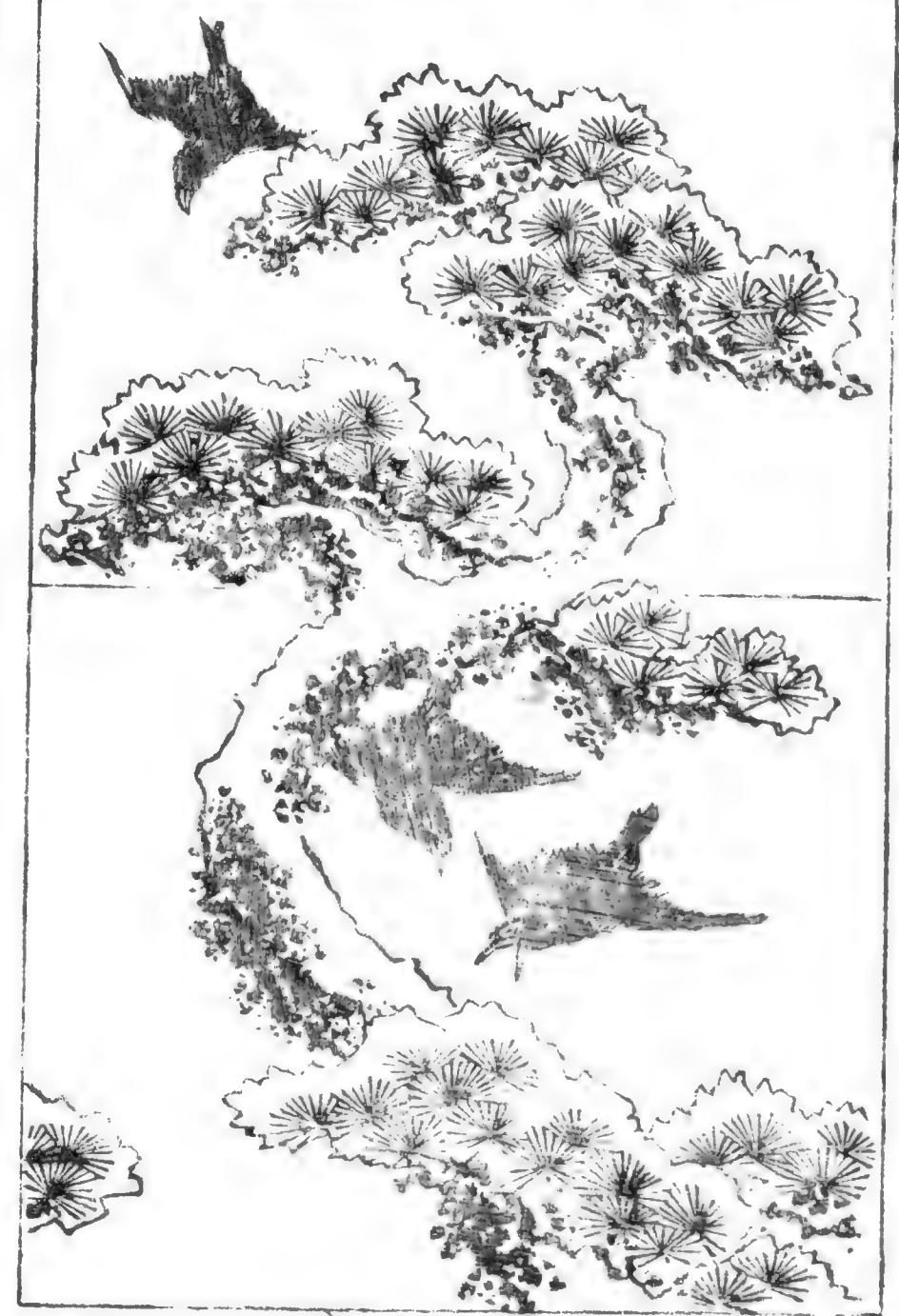


あまのこ

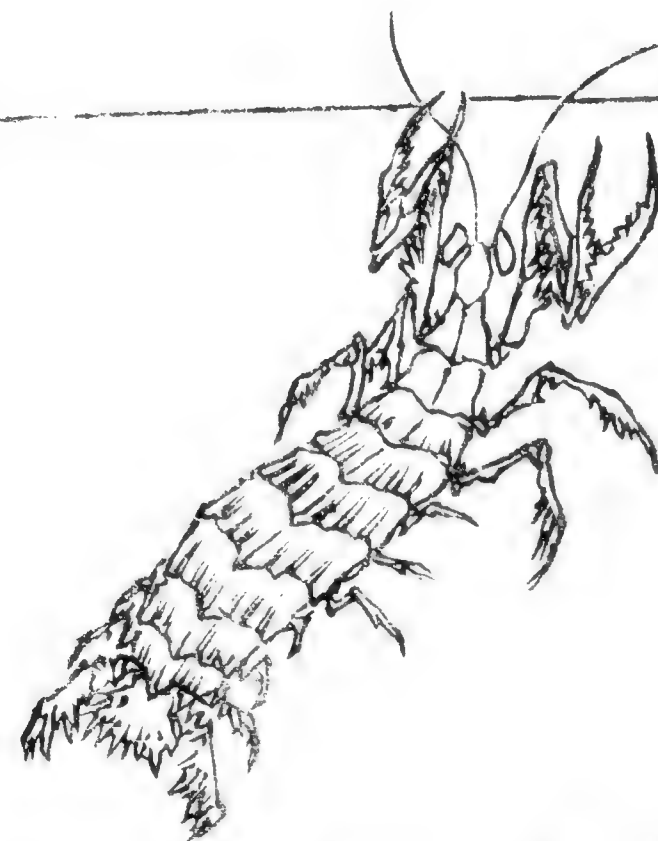
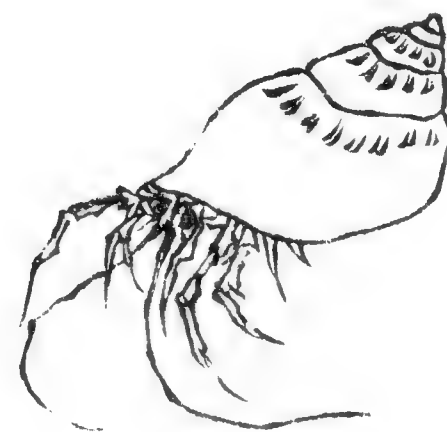
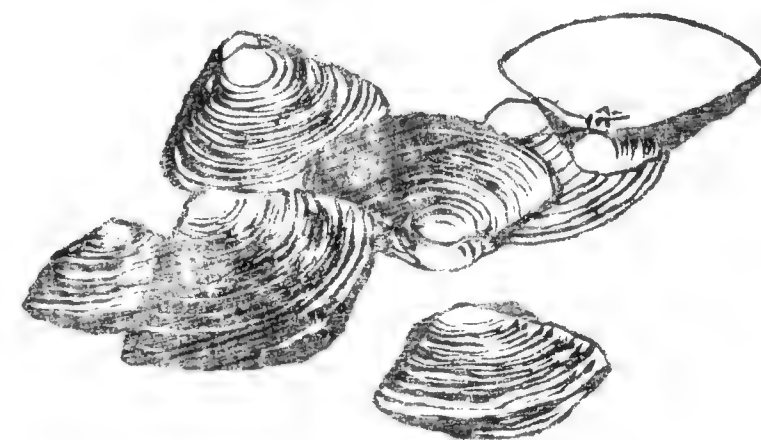




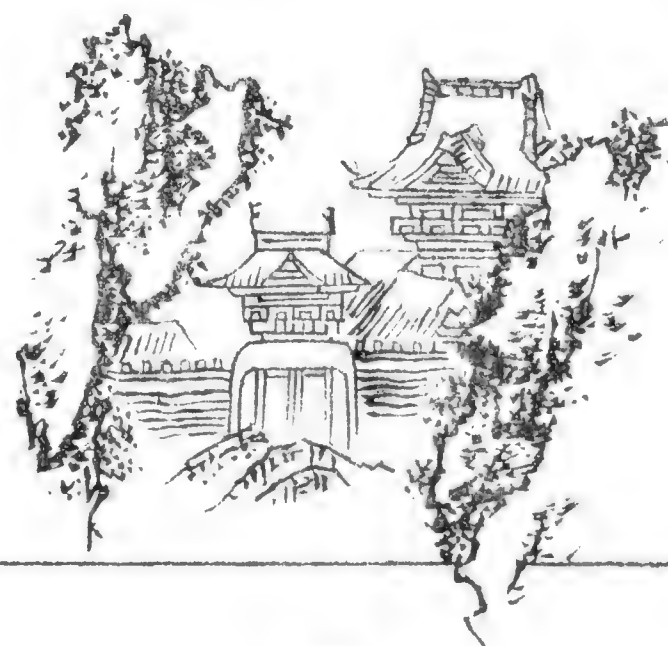
ふとたり



水産部



17



おろかなをこれ
あやうづのどろ
するも
おろかなを
さうて
さひふむ
うまて
あのか
かんき
う
は中
さうて



牀上肴雲鶴
林間僻蟄蟲
清閑談玄夜
愛此樂無窮
烟草詩屎齋



前北齋為一先生画圖

雕五 江川留吉

東都書林永壽堂藏板目錄

為一先醒肉筆画帖

是板に彫る物より前北齋為一先生の内筆あり、遠國の人といへども、此画帖を求て、先生は入る。

為一先醒雞肋画譜

此書、文政二年の頃より見聞せる所、風俗禽獸草木器財及び天文地理等、古來より庸画工の筆と下り、能く、此画に終りと編を述ぐ。

富嶽八體

四季晴雨風雪霧天、造化に隨ひ、景色の異と筆端に著る。

百槁一覽

一枚摺

都下村里の槁地理の宜に、隨ひ製作、乃各異、又山水と画く助けとる。

画圖風雨霜雪編

山水草木人物禽獸風雨霜雪の趣、強弱輕重乃意味と具ふ。

一覽百宮室 一枚摺

文政六年癸未夏五月

麴町平河町二丁目

衆星閣 角丸屋甚助

東都書林

馬喰町二丁目角

永壽堂 西村屋與八

